

社会科教室139号

平成9年度

社会科教育研究のあゆみ

香川県小学校教育研究会社会部会
香川県社会科教育研究会

目 次

会長あいさつ	1
6 月定例会	2
7 月定例会	4
9 月定例会	6
10月定例会	10
11月定例会	12
2 月定例会	14
夏季研修会	16
全国大会（1 次案内）	18
津田小提案	22
香社研提案	32

香社研への期待と責任

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県社会科教育研究会
会長 上川 敦生

昨年11月文部省の教育課程審議会は、2003年から小学校で年間70時間授業削減することや総合的な学習の新設を核とする「中間まとめ」を公表しました。

そこでは、各学年の教科の削減時間数の改訂案が示され、総合的な学習の時間が週3時間設けられています。相当踏み込んだ内容であり、これまで研究に取り組んできた香社研にとっては、平成10年度の全国大会にまた、一段と弾みがつくものです。

その間、香社研では津田小学校の夏の研究集会を中心に各都市の定例研究会で意欲的に研究を積み重ねてきました。特に津田小学校の総合学習の取り組みは、

- 1 「国際化」「環境」「人間」「情報化」の4つの教育課題を踏まえた学習
- 2 総合学習の学力として、「内容知」と「方法知」を考えた
- 3 各教科、領域にまたがって横断的、総合的に単元構成をした
- 4 地域の学習材を発掘し、系統を図って各学年のテーマに取り入れた 等多くの学ぶべき内容を与えてくれました。

また、全国大会3会場校を核に研究内容の構想や分科会構成等、大会に向けての第一次案内が作成される運びとなりました。

この香川大会は、21世紀に生きる子どもの教育のあり方を求めて、

研究主題 未来に生きる人間づくりの教育

—新教育課程の構想による 総合的な学習 の実践— を掲げています。
社会、生活、道徳

そして、研究の全体構想を次の4つの視点の組み合わせで理論構築を図っています。

- ・ 「生きる力」の育成を図る教育課程の編成
- ・ 総合的な学習
- ・ 社会科学学習
- ・ 学び方を学ぶ学習

この総合学習を核にした教育課程の編成は、まさに一教科、社会科の全国大会のためというより、どの学校もが取り組まなければならない学校経営の発想あるいは人間づくりの立場での提案であり、全国的ないじめ・不登校、昨今の児童・生徒の問題行動等、教育界全体の問題解決をも提起する、現代の教育課題と学校の教育目標の統一を図る研究内容であります。

教育課程の最終答申がこの秋までには出されますが、新教育課程の構想による価値ある大会を全国に先駆けて開催する香川への期待は大きく、また、同時に責任も重大です。今年度の研究の成果を弾みに、さらに研究を重ねていかなければなりません。

後になりましたが、全国大会に向けて終始内容と方法についてご指導くださいました高松短期大学教授池内博先生に厚くお礼申し上げます。とともに先輩の先生方のご支援に深く感謝申し上げます。会員皆様の更なるご協力、ご支援をお願いいたします。

平成9年度 香社研6月定例会（大川・小豆集会）の報告

1 日 時 平成9年6月21日（土）14:00～17:00

2 場 所 津田町立津田小学校

3 研究授業

単 元 「津田町に住む人の心を絵本にしよう」

授業者 大野 里美 （津田町立津田小学校）

提案者 羽座 則史 （土庄町立土庄小学校）

大高 哲也 （長尾町立造田小学校）

指導者 森 正彦 指導主事（香川県教育委員会義務教育課）

4 提案及び討議内容

（1）提案（小豆）

研究主題

生きる力の育成を図る総合学習，社会科学習の展開
－学習材の開発を中心にして－

- ① 今まで「問い」をテーマにしていたが，今年度からはさらに「生きる力」の育成という観点から見直すことにした。
- ② 人間としての「生きる力」を育成する。
- ③ 環境・文化を中心として教材開発をしていく。
- ④ 個を生かすための，また，個の認知スタイルに即した支援・援助の在り方はどうあるべきかを探っていく。

（2）提案（大川）

研究主題

豊かにたくましく生きる人間づくりの教育
－生きる力の育成を図る総合学習，社会科学習の展開－

- ① 3年生として「生きる力」につながる“社会を見る目”を育てる。
- ② 生活科の成果を生かす。
- ③ 単元の特徴を生かした力をつける。（聞く力・書く力・追加質問する力）

④ 地域に働きかける行動力をつける。(地域から学ぶ)

(3) 討議内容

〔単元の動機づけ〕

- 総合学習は初めてなので、2年生の時の探検学習と結びつけて「町の人はどうな思っているのかな。」となげかけた。また、絵本づくりは教師から提案し、意欲化をねらった。

〔調べる前の子供の予想〕

- 前時では、自分のまわりの様子と思いがなんとなくつながっていると思われたので、始めにも予想することができたと思うが、友達と交流することでより深まり、他の地域の土地の様子と「思い」もつなぐことができると考えた。

〔社会科と総合学習〕

- 教師の支援については、教科では個別に、総合学習では一人一人の個性を生かすことが大切だ。
- 表現物・・・自分の絵本に書き加えていく。
- 総合学習では、本時の目標が変わってくる。また、自己評価などを取り入れる。
- 総合学習では、学習過程が違ってくる。子供一人一人の考えから次時の活動が生まれてくる。
- 絵本より絵地図が表現物に適しているのではないか。また、調べの中心になるのは大きな地図であったと思う。
- 社会科では人間というものがあり取り上げられていなかったが、本時では人々の願いが中心になっていてよかった。
- 一人一人の感じ方の違いをどう生かし、どう埋めていくのか。一人一人のイメージのずれを埋めるには、映像（絵地図）を使って抽象と具体を結んで考えられるようにするとよい。意欲をつなぐためには表現物が生かされるようにすることが大切だ。

5 ご指導

- 総合学習では、子供が自分で課題を見つけ、解決していくことが大切である。地域を知ることから、また、好きになる。社会科はそこから始まる。子供も社会の一員である。
- 総合学習とは、そのものの目標に向かって取り組むもの。（今は過渡期）まずは一人一人に各教科の内容を身につけさせることが大切である。一人一人の子供を見極めていくべきである。
- 「比べる」ことは大切である。「もっと考えましょう」には、「今までの体験と比べましょう」「学んだことを比べましょう」が含まれている。比べるときには、比べる視点を持たせることが必要である。
- 教師の支援は直接的には、「くわしく言ってごらん」「地図の上に上がってもいいんだよ」等、子供の既成概念をくずすことも大切である。
- 教室環境については、大きなものばかりでなくモデル的なものも使用する。（絵・写真・モデル図等）
- より次元の高い発表に子供自身が気づくように。それに気づきそうな子もたくさんいるので、その子がより生きるようにする。
- 事象でわかりにくかったことが、地図の上ではっきりすることもある。
- 歴史的認識を子供に持たせる。
- 地域を見通し、地域を愛する心を育てる。

平成9年度 7月定例研究集会(坂出・綾歌)の報告

1 日時	平成9年7月5日(土) 14:00~16:45
2 場所	坂出市立中央小学校
3 研究授業	单元名 総合学習「久米通賢とふるさと坂出」 授業者 丸岡 小百合 寺嶋 俊秀 沼野 生幸
4 提案者	萱原 照子(綾・西分南小) 寺嶋 俊秀
5 指導・講演	池内博先生(高松短期大学教授)

1 意見発表

《三観社研》

- ・教師のねらいと子供の願いが一致していた。
- ・学習成立の内容を明確にする。

《丸亀社研》

- ・「生きる力」はこのように育てていくんだという手がかりを得た。
社会の中で「生きる力」をはぐくむためには、教材の価値を人の中に求める。
- ・「どのように塩をつくったのか」ではなくて、塩の中に久米通賢のどんな生き方や願い、努力を見つけたかを大切にしている。
- ・子供の表現の中に「これでさぬきの国が豊かになる」という表現が見られた。願いと結び付けた反応が「生きる力」につながる。
- ・表現の相互交流だけでなく、内容の相互交流も望まれる。

《大川社研》

- ・「人間としての生き方」としての問題解決能力、コミュニケーション能力を求めている。
- ・総合学習の軸として、体験と表現がある。子供たちの個性を生かして学習スタイルを工夫している。また、子供の課題意識を大切にする。
- ・年間計画を子供たち自身が立てていた。
- ・TTの活用として、もっと子供たちのよさを発揮できるようにしたい。

《高松社研》

- ・ペープサートグループでは、今日学習したことを色の違うカードに書いていたの
で、自分の伸びが分かる。順番も相談しながらカードをおけていた。

《附属高松小》

- ・中央小の総合学習として、地域の先人を学ぶというよさがある。
- ・総合的・・・体験と表現活動の重視
子供の課題意識が大切である。
横断的・・・国・音・社・理という関連。
どちらかと言えば、総合的を大切にして、子供の感動を大切にしたい。

《岡田先生》

- ・地域の文化を高められていた。
- ・内容知と方法知を合わせて構造化されていた。
- ・総合学習は人間形成を目指すべきである。
集団離れ・・・集団とは組織(きまり、規範がある)
集団の力で個を伸ばすことが大切である。

① 各グループが前時の課題を踏まえる。

前（意欲）⇒後（意欲）⇒次へと、どう変容するかが成長である。

意欲から意欲へ、が教科と異なる点である。

内容知、方法知という両方の意欲

一つ一つの枠の中に意欲の流れ（連続）が分かる表現をして欲しい。

② 表現力の選択・・・自己の個性を生かす

表現と思考の一体化が教科学習と異なる点である。

総合学習、総合的学習、総合的な学習もやってみれば三者同じである。

多様な思考から個性豊かな子供が育つ。

友達のよさを学び、自らのよさを伸ばすだけでなく自分の補う点を学ぶことが大切である。

③ 滝宮小の例より

単元名：子供たちの願いの入ったものにして欲しい。

子供の意欲で結ばないと、これまでの関連と同じことになる。

横断的とは、1時間の中に国・社・道の3つを1時間としてまとめる。

教科の統合も、教科学習の中でもやって欲しい。

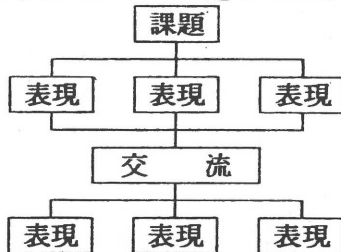
H12年・・・新指導要領

教師も1教科だけの研究をしている

22年・・・統合（教科を少なくする）のではだめである。

④ 今日の学習

始めと終わりとはどこが違ったのか。



次元の高低がある。

交流により足りないところを補充する。

足りなさを学ばせていかないと、総合学習が学力低下につながる。

TT (T1, T2, T3)

共通な技法・・・方法的な学びを入れていく。

技法の交流 ペープサートは、どこをどんな技法で変えるか。

紙芝居では、どこをどんな技法で変えるか。

課題選択－なすがままにしておくのはだめである。

各グループに内容知と方法知を学ばせる援助が必要である。

⑤ 生きる力の育成－総合学習

道徳が一番大切である。必ず入れて、生きる力の育成の柱に

総合単元的道徳学習＝大主題構想

⑥ 2校の総合学習

中央小 久米通賢 郷土愛、情報化、人間化	滝宮小 うどん 郷土愛、国際化、文化
----------------------------	--------------------------

教育の課題を解決していくような単元構成（問題解決的な学習）

1・2年は生活科の内容で自分の学校に含まれないものを。

総合学習と考え方は同じである。

集中的にしてもよい。

弾力的、子供が楽しく、内容がしっかりした総合学習の実践を積んで欲しい。

香社研 9 月 定例研究集会（木田香川郡社研担当）

1 日 時 平成 9 年 9 月 20 日（土） 14：00～16：30

2 会 場 木田郡三木町立田中小学校

3 日 程 14:00～14:05 会長あいさつ

14:05～14:20 木田郡の提案

※ 三木町立神山小学校 小笠原 学教諭

子供が主体的に活動する社会科学習
体験や活動から表現へとつなぐ指導のあり方

14:20～15:10

ビデオによる提案授業

※ 6 年社会「徳川家光と江戸幕府」

※ 三木町立田中小学校 森口 英樹教諭

15:10～15:30

香川郡の提案

※ 塩江町立安原小学校 橋本 英敏教諭

同和教育の視点に立った社会科学習のあり方

15:30～16:10

研究討議

※ 別紙記録用紙参照

16:10～16:30

指 導

※ 県教委義務教育課 森 正彦指導主事

16:30～16:35

会場郡よりお礼のことば

討議の記録 No. 1

平成 9 年 9 月 20 日 (土)

6 年	教科・その他	社会	単元・題材	徳川家光と江戸幕府			
指導者	森正彦	司会者	長谷民子	授業者	森口英樹	記録者	北買節子

開会のあいさつ

会長 平成 11 年の研究大会に向けて (総合学習等)

木田郡の提案 (小笠原教諭) 資料参照

<研究の視点>

(1) 体験 (感ずるによって学ぶ) を重視する

(2) 表現活動から、思考の高まりにつなげる

(3) 人間の生き方や在り方を考える

<本時の主張点>

差別に負けていて、たくましく生きる人たちの生き方を学ぶ

課題別に/分かれた調へ学習

3つの観点 (仕事・文化・協力) の資料を用意

<ビデオによる授業発表>

・前時 差別によるきびしい生活でありながら、人口が増加していることから、自分の学習課題をつかむ

・本時 調べたり、学習したことから、自分の生き方を考え込んでいる見意が多かった。

吉川郡の提案 (橋本教諭)

<同和の視点になった社会科学習の視点>

(a) 教材や資料、学習の進め方など工夫する

(b) マイクスイッチから、プラスイーチ(力強く生きる姿)へ

(c) 道徳・特別活動との関連を図る

<本時の主張点>

パソコンによる資料提示

Aニメ紙芝居に自分の考え(吹き出し)を書く活動

知恵と汗をこぼった家さ (地域の人々の生活を支えた仕事)

授業者から

- ・身分制度の学習について、中学校の教師から質問
「士」と「農工商」というとどちらが弱いのではないかと、
- ・農民が差別されていたと感じている児童が多かった。
- ・資料の用意の仕方 (よく選んだ資料を手える)

討議

福岡・武志のつくった身分制度について児童の驚きといかりから
教諭 さらに低い身分の人々はどう生きていったかをとらえさせるには、1時間では難しい。
「カムイ伝」(農民の不満、いかり) → 低い身分の人々

亀井教諭より

- ・さる回し(差別の目で見ると → たくましく生きる姿として見る)
- ・これほどの部落問題学習をどう進めてきたのか(質問)
- ・歴史学習の中での差別問題

授業者から

- ・本校は人権学習として進めている。
- ・5年生までは人権学習をし、6年生で同和問題学習をしている。(感染一掃などを取り上げていた)

橋本教諭から

- ・全校で、人権学習を道徳科で学習したことを集会等で発表するようにしている。
- ・部落問題学習は、地域の実態や保護者の意見を聞いて進める必要がある。

川比賀教諭から

- ・同和教育は、総合学習として進めていくべきと考えている。
- ・漁業は、身分制度の中でどのように考えればよいだろうか。

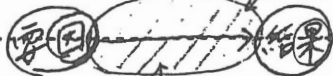
福岡先生 愛媛県の資料で漁村が被差別部落であった
という事を知った。

司会者から 伝統文化教育の農村歌舞伎を調べてく中で
も同和問題とふれたことがある。

指導者より

1 教師の歴史観（歴史認識）をしっかりとむ
・日本の児童がより主体的に考え行動していけるようにする

2 人間の生き方・在り方をとらえさせるために
・因果関係の向にあるものに着目して考えていく



人々の思い・原動力・生き方・困難をのりこえるための工夫

3 思いをめぐらす過程を大切にしてい
・児童の思いや考えの発露を残っていくように工夫

4 資料の用意が、すばらしかった。
資料の吟味がよくできていた。（教材研究）
・資料に視点を与えてくのが教師の役割である。

5 総合学習について

・橋本先生 最後には道徳の授業のようにになっていた。
・人間の内面（生き方）を深めていくとやや道徳的になってく
・重点化をして、その学校らしいを出していく必要がある。

平成9年度 10月定例会の報告

1 日 時 平成9年10月18日(土) 14:00～

2 場 所 高松市立四番丁小学校

3 研究授業

4年 単 元 「くらしを高める願いー

わたしたちの郷土と水のかかわりを調べようー」

授業者 大嶋 和彦

5年 単 元 「店の品物から工業製品の生産の様子を調べよう」

授業者 池田 理恵

4 提案及び討議内容

(1) 学校提案

『新しい教育課程を構想した社会科学習の開発』

- ① 社会認識の深まりといきる力の育成を求めて
- ② 新社会科学習の構想を展開の視点
 - ・社会事象を人間とのかかわりでみる
 - ・子どもの課題を軸として単元を構想する
 - ・体験(観察, 調査)を基盤とする
 - ・表現の連続により思考を深める
 - ・集団の活動の中での、個の学びの育ちを見つめる
- ③ 課題単元の展開例

身近な社会事象から学習の経過をたてる

↓

典型材をもとに学習の視点づくりをする

↓

調査・観察をする

↓

調べたことを表現しながら、内容を深める

↓

典型材をもとに内容を一般化する

↓

自分たちの生活とつないで考える

(2) パネル討議

大嶋先生(四番丁小)

- ・本単元は課題単元である。

水に関することを一つにまとめて学習→「水をどう考えていくか」

- ・本時は、子どもの調べたい内容が多いため、それに対して教師がどう援助していくかがポイントであった。

亀井先生（附属高松小）

- ・思考と表現について

思考しながら表現→操作 論理操作

感性操作（自然的思考）→感性をみがく、五感を総合的に使って行われる

- ・感性操作の方法は、吹き出し、物語の脚本など人間の心が入ったものである。

喜多先生（附属高松小）

- ・課題単元、教材内容の厳選について

生きる力を培うには、ゆとりが必要→厳選→総合学習

教材開発の視点を明確に

小・中の連携学校外との連携

領域単元から課題単元への移行

池田先生（四番丁小）

- ・5年の授業より

子どもたちの課題意識を大切にしながら進めた

教科書（自動車工場）の学習をタダノでの見学の視点づくりにした

タダノで理解したことを日本全体に広げる

喜多先生（附属高松小）

- ・課題単元づくりの中には、内容を削ることも入っているが、新しい社会科学習を作っていくことが大切である。
- ・課題単元の中には、現代の社会をどう見ていくかが含まれている。
- ・先人の苦労を考えたトータルな学習（他に転移する力）

討議のまとめ 旅田先生（附属高松小）

- ・今日の授業で課題単元の作り方がはっきりしてきた

内容が伴ったものだ、領域統合（工業＋農業）、総合学習

- ・感性操作の具体がよく本時でよく分かった

豊かな感情を伴って人間の生き方に迫っていく→生きる力

- ・集団の中での個の育ちかた

自分と友達の考えの違いに気づく、自己評価を通して自己意識が育っていく

香社研 11月定例会（丸亀・仲善）討議記録

1 日時 平成9年11月15日（土） 14:00～16:45

2 場所 ホテルニューキャッスル

3 討議事項

丸亀の提案「表現活動を重視した社会的思考力と、
総合的な学習の実践」について

4 討議内容

仲南西 川田 酸性雨を調べようとしたきっかけを教えてください。

提案者 「みんなの地球」のイントロダクションを終えた後、今後学習していきたいことについてアンケートをしたところ、酸性雨に興味関心を示したため、教科の内容をふまえながら、年間計画を立てることにした。

附属 福岡 二層五段階方式の中で、発見①、発見②と分けた意図について、説明してもらいたい。

提案者 発見①は生命力、発見②は生命力と自分との関わりと、とらえている。

飯野 香川 ビデオを見る限りでは、一斉学習の印象が強いが、問題解決的、体験的学習をどのように進めてきているのかについて説明してもらいたい。

提案者 単元における体験学習
・ガソリン車、ディーゼル車の排気ガス調べ……酸性雨づくり
・校区に降った雨を集めてバックテスト……PH調べ
・校区内を歩いてイオウ酸化物、窒素酸化物の調査
問題解決的学習及び表現活動
・思考過程がわかるワークシート
・全校児童による、いのち発見学習発表会（12月に予定）

附属 喜多 ○環境問題は、具体的な段階に入ってきている。環境会議（京都）
○自分にできること（実践化）について考える場があることについては、評価できる。
○問題解決学習は、課題意識の連続と高まりである。小単元間の子どもたちの意識の連続化、高まりをどのようにしていくかが、大切である。

附属 福岡 ○大きい視点から個人へ、身近な生活から大きな視点へ。環境問題（酸性雨）は、身近な問題から課題がつけられるのでは、

○酸性雨の調査をしたところ、2人の子どもの結果が、PH7とPH5と大きなずれがあった。集めた場所によって異なっていることに視点をあてれば、課題がつけれるのではないだろうか。

附属 佐藤 ○子どもたちのワークシートから、疑問点を見つけることができる。
例えば、高速道路の近くなのに、PHが少ないのは、なぜだろうか。
○体験活動、表現力をどのように位置づけていくかが重要である。

附属 藤田 ○発見①から発見②の間で、表現活動を取り入れてはどうだろうか。
○表現活動の中から、自分を見つめたり、考えを深めていく。
○子どもたちが内容を作っていくような学習が望ましい。今回であれば、「水」に着目して、学習を進めてもよかったのではないだろうか。

- 田尾指導主事
- 1 総合的な学習の視点から
 - ・児童の主体性を大切にしている。
(自分－出会い－発見①－発見②－自分－自己決定)
 - ・生きる力は、実践の連続の中で、そして教育活動全体の中で、組織的系統的に行って培っていきける。
 - ・総合的な学習の教育課程は、学校課題、教師の考え、子どもの実態、地域の願いを吟味して編成していかなければいけない。
 - ・実態が明らかになるほど、総合的な学習の在り方が見えてくる。
 - 2 教師の意識、指導の在り方
 - ・日本は、一斉授業では優れている。指導技術の開発、個別指導の在り方、教師の関わり方、資料の提示方法、指導形態を研究する必要がある
 - ・教師は、企画する必要がある。各教科の関連、系統性を考えながら、単元構成をしていく必要がある。また、実態と教師の持ち味、計画とのバランスをとりながら進めていくことも大切である。
 - 3 問題解決的な学習
 - ・いかに課題意識を高め、持続していくかである。課題をつかみ、発見し、解決していく力を育てていくかである。
 - ・授業の最終段階において、分かったこと分からなかったことを明確にし、新たな課題を発見することが大切である。
 - 4 表現力、社会的思考力
 - ・表現力、社会的思考力をどうとらえるかである。また、子どもの活動の中で、どのように分析していくかである。
 - ・一人一人の実態をとらえ、そして個人差をいかにして考慮していくか援助していくかである。

会議日 平成10年 1月17日土曜日

会場 比地小学校

司会者 大久保 進 教諭

記録 橋田 栄子

テーマ 「国際理解を深める社会科学習の在り方」

ー 人との交流を中核に、異文化理解を促し自国理解を深めるー

1 香社研会長よりあいさつ

2 研究討議

(1) 授業者より (15:20～15:25)

- ・ 本時決定の理由として、アメリカ合衆国を子どもたちはよく知っている。また関係も深い。自由、にぎやか、カッコいいというイメージを持っている子どもが多いが、そのイメージをうちやぶって自由のみではないということを知ってほしかった。
- ・ モアさんを資料とした場合、通訳と本人と授業者との打ち合わせが大切である。
- ・ 子どもたちの探っていく内容が多すぎた。自分の見出しを扱うために、項目が多くなってしまった。
- ・ 見出しを修正する場面で、わけがもっと言えたらよかった。
- ・ 自由の裏の責任、判断に到達していなかった。

(2) 提案者より (15:25～15:35)

(資料に沿って提案を行う。)

(3) 質問・討議 (15:35～16:05)

- ・ 本時はモアさんから異国文化を体験したわけだが、直接体験を行うと子どもたちの目の輝きが違う。普段のモアさんとの交流を聞かせてほしい。
- ・ モアさんとの交流は9月からで、全校生と交流した後、各学年で交流を行った。6年生には英会話の授業をしてもらった。教科の中での位置付けはできていない。

- 生きた資料というのは、どういう形なのか。質問して答えるのが生きた資料なのか。また提案の中に「多面的に見る目を養う。」とあるが、本時の中で多面的とはどこなのか。
- 小見出しの修正や、モアさんに話をうかがうところである。
- モアさんからこの小見出しではだめですよ、不十分ですよと問い返して、資料を見直す機会が欲しい。これが生きた資料である。また、多面的とは小見出しの修正と、モアさんという異文化とふれあうことである。異文化とふれあうためには、一つの見方だけではだめである。いろいろな見方が事実にもとづいて行われなければならない。そのことによって日本の文化も見直すことができる。
- 違いのみに子どもたちの目がいってしまい、その事実の背景にまで目が届かない。モアさんに教えてもらったことが、他の読み物資料でも得られる内容になってしまう。モアさんと共に活動することなどがあればよかった。
- 子どもが素朴な概念を言ってほしかった。自分なりのアメリカのとらえかたが小見出しに表れていたと思うが、小見出しが「問い」となっていなかった。小見出しが事実となっていたために、事実を確かめる授業となってしまった。もし問いとなっていたら、モアさんに問いかける姿勢が出て来るし、モアさんも背景を語ってくれるだろう。
- 厳選と課題意識について

「厳選」については、アメリカの学校にしぼられていた。観点が6つもあったので本時は給食のことにしぼってみてもよかったのではないか。一つの観点からアメリカ文化にふれることもできた。

「課題意識」については、小見出しの訳柄を言わせたり、小見出しの相互関係を話し合わせてもよかった。
- 一つの国を調べていくことによって、他の国も調べることもできる力を育てることが大切である。本時は、他の国を調べる力となっているか。例えばタイの国を授業するとき、その国の人の立場になって授業することも大切である。
- 自由から責任をみつけだすのは、難しい。例えば給食の場合、栄養というところまでいくのか。自由から責任は飛躍している。そのためには具体をもっと出さなければならない。本時は、子どもがモアさんにかかわっていき、そこへ通訳の人が入るという形が良かったのではないか。

(4) 指導 (16:05~16:55)

(柴田先生より)

ア 国際理解教育の共通理解について

・なぜ国際理解教育なのか

昔は、物や金が先行していた。しかし、今人が動き出してトラブルが起こるようになった。また、子どもたちの国際感覚の特徴として、外国の出来事に興味関心を持ち始めていたり、外国人や異文化への対応は積極的であったりする。

・国際理解教育の4つの視点について

① 自国文化の理解

アイデンティティの確立をしないと自国が語れない。

② 他国の異文化理解

③ 人間理解、人権尊重を国際理解教育の中に取り入れる。

④ コミュニケーション能力の育成

以心伝心ではだめである。明確な意見を持って伝える力が必要である。

これは学習指導要領の社会科の目標の中にも入っている。

イ 本時の授業の中で学んだこと

・表現を2回行うのは、一つの提案となる。小見出しは簡単である。教師が見ていく中で、簡単に評価できるものである。小見出しの背景を探ることが大切である。小見出しを設定した理由の中に、子どもの考えがある。それを授業の中に出させる必要がある。

・モアさんの深い存在。実物が持っている魅力。地域の人材活用。

・香社研テーマ「豊かにたくましく生きる人間づくりの教育」の子どもづくりをするために、子どもはどこで考えるのか、どこにこだわりをもっているのか、聞く活動の前に調べる活動が入るべきではないだろうか。予想をもってモアさんにあたる必要がある。

・内容について

アメリカ、ヨーロッパ志向からアジアへ。アメリカにもきびしい面がある。アジアにもすばらしい面がある。同じ立場に立って、他国を見る必要がある。

(池内先生より)

・ 分かりやすい授業であった。

・ 国際理解を内容・方法両面からとらえなおしている。

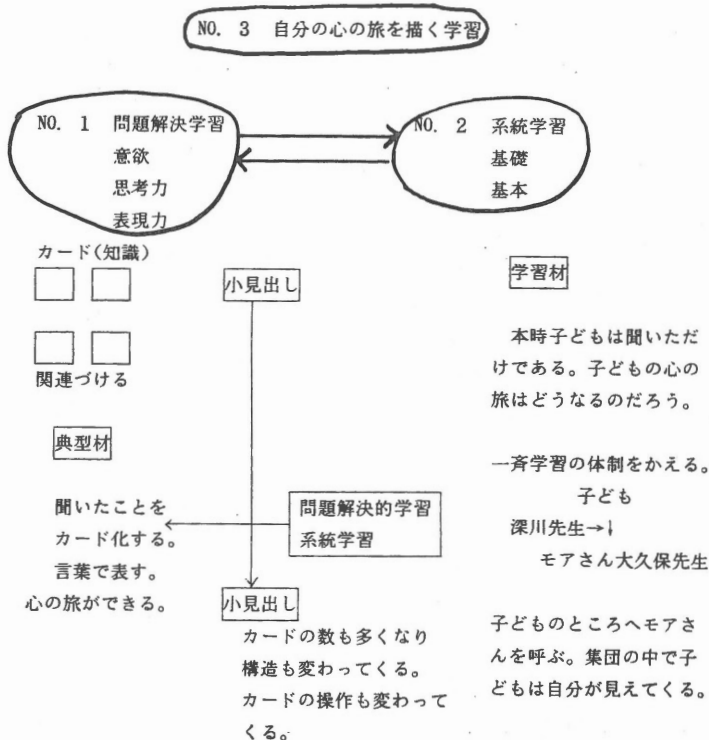
・ 国際理解教育は横断的総合的学習の柱としてとらえていく。地球人として

自国を見つめ直す。その上に国際理解教育がある。

- 学ぶことの意味

どんな学び方を学んだか。学ぶ値打ちは何なのか。学びの値打ちが自分で分かるのか。「小見出しをつける」は学びがいのあるテーマである。

学びがいがあったかどうか、自己評価をする。結果は次時への学びがいへつながる。



子どもの力で不十分なところを教師は補ってあげる。

- 地域と学校との連携の授業

教育者ではないので配慮点はたくさんある。資料として使えるものにしていく必要がある。情報としてきちんと整理していく必要がある。(文章化するなど)

音声言語と書く言語を大切に。情報の把握の仕方を大切にする。ノートは何から考えたのか、絵、言葉で図式化する。

- 自己意識を大切にする。

ほめる

他を認める

他をほめる

自己を直す

交流することによって結果の自己評価を大切にする。

平成9年7月1日

市町教育委員会教育長殿
小学校長殿
研究会員殿

香川県小学校教育研究会
会長 河津 學
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 上川 敦生

平成9年度 夏の社会科研究集会ご案内

本年度、香小研社会科部会では、「豊かにたくましく生きる人間づくりの教育－生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開－」という研究テーマのもと、＜真の学力観＞、＜総合学習の構想＞、＜授業研究の在り方＞という課題に取り組んでいます。

学力観として、真の学力観を「人間」「能力」「知識」から構築しています。

総合学習の構想では、教科、道徳、特別活動に、教科統合と教科等統合の考えを取り込み、関連と統合を図る単元開発の構想を打ち出しています。

授業研究の在り方については、知識構造、学習材と典型材、学習内容の厳選に取り組んでいます。

この夏の研究集会における理論研究、授業研究、ならびに実践交流等を通して、さらに研究を積み上げていきたいと願っています。

そこで、下記により、会員の皆様方との研究交流をいたしたく、ご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成9年7月31日(木) 8:30～16:20
- 2 会 場 津田町立津田小学校
〒769-24 大川郡津田町津田144番地 (☎ 0879-42-2047)
- 3 研究主題 豊かにたくましく生きる人間づくりの教育
－生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開－
- 4 講 師 文部省初等中等教育局小学校課教科調査官 北 俊夫 先生
- 5 主 催 香川県小学校教育研究会社会科部会
- 6 後 援 香川県教育委員会 津田町教育委員会
香川県小学校校長会 香川県小学校教育研究会

7月31日(木) <進行・・・須富康子教頭(津田小)、福岡和信(坂出附属小)>

時刻	内 容																																				
8:30 9:00	受付 提案授業																																				
	<table><tr><th>年</th><th>単元名、授業者</th><th>司会者</th><th>協力者</th><th>指導者</th></tr><tr><td>1</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (生活科) 栗尾順子・依里恵</td><td>向山智恵子 (引田小)</td><td>依里恵 野網 明子 (津田小) (鶴羽小)</td><td>三好 恵昭(丹生小教頭) 池田 孝徳(小・瀬崎小教頭)</td></tr><tr><td>2</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (道徳) 佐々木省治 村上 勝</td><td>窪田 史子 (本町小)</td><td>佐々木省治 村上 勝 (津田小) (丹生小)</td><td>寺田 文久(北山小教頭) 渡邊久仁子(観・常磐小教頭)</td></tr><tr><td>3</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 大野里美 神 田二 山下 博</td><td>栗島 博人 (本町小)</td><td>大野里美 神 田二 山下 博 (津田小) (登水小) (石田小)</td><td>大岡 真海(福栄小教頭) 古沢 博美(高・四番丁小教頭)</td></tr><tr><td>4</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (社会・国語) 高田 宏隆 山田能之 六車 浩 梅本明宏</td><td>高田 宏隆 (相生小)</td><td>山田能之 六車 浩 梅本明宏 (津田小) (鶴羽小) (志度小)</td><td>佐藤 正文(造田小教頭) 岡根 淳二(観・観音寺南小教頭)</td></tr><tr><td>5</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 上村京子 竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫</td><td>上村京子 (三本松小)</td><td>竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫 (津田小) (北山小) (白鳥小)</td><td>小倉 健治(富田小教頭) 高橋 英武(高・亀阜小教頭)</td></tr><tr><td>6</td><td>総合学習「旅の思い出を伝える」 (学級活動) 松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子</td><td>松岡輝子 (五名小)</td><td>松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子 (津田小) (三本松小)(引田小)</td><td>熊田 正美(白鳥小教頭) 田井 秀典(三・上高野小教頭)</td></tr></table>		年	単元名、授業者	司会者	協力者	指導者	1	総合学習「旅の思い出を伝える」 (生活科) 栗尾順子・依里恵	向山智恵子 (引田小)	依里恵 野網 明子 (津田小) (鶴羽小)	三好 恵昭(丹生小教頭) 池田 孝徳(小・瀬崎小教頭)	2	総合学習「旅の思い出を伝える」 (道徳) 佐々木省治 村上 勝	窪田 史子 (本町小)	佐々木省治 村上 勝 (津田小) (丹生小)	寺田 文久(北山小教頭) 渡邊久仁子(観・常磐小教頭)	3	総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 大野里美 神 田二 山下 博	栗島 博人 (本町小)	大野里美 神 田二 山下 博 (津田小) (登水小) (石田小)	大岡 真海(福栄小教頭) 古沢 博美(高・四番丁小教頭)	4	総合学習「旅の思い出を伝える」 (社会・国語) 高田 宏隆 山田能之 六車 浩 梅本明宏	高田 宏隆 (相生小)	山田能之 六車 浩 梅本明宏 (津田小) (鶴羽小) (志度小)	佐藤 正文(造田小教頭) 岡根 淳二(観・観音寺南小教頭)	5	総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 上村京子 竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫	上村京子 (三本松小)	竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫 (津田小) (北山小) (白鳥小)	小倉 健治(富田小教頭) 高橋 英武(高・亀阜小教頭)	6	総合学習「旅の思い出を伝える」 (学級活動) 松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子	松岡輝子 (五名小)	松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子 (津田小) (三本松小)(引田小)	熊田 正美(白鳥小教頭) 田井 秀典(三・上高野小教頭)
年	単元名、授業者	司会者	協力者	指導者																																	
1	総合学習「旅の思い出を伝える」 (生活科) 栗尾順子・依里恵	向山智恵子 (引田小)	依里恵 野網 明子 (津田小) (鶴羽小)	三好 恵昭(丹生小教頭) 池田 孝徳(小・瀬崎小教頭)																																	
2	総合学習「旅の思い出を伝える」 (道徳) 佐々木省治 村上 勝	窪田 史子 (本町小)	佐々木省治 村上 勝 (津田小) (丹生小)	寺田 文久(北山小教頭) 渡邊久仁子(観・常磐小教頭)																																	
3	総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 大野里美 神 田二 山下 博	栗島 博人 (本町小)	大野里美 神 田二 山下 博 (津田小) (登水小) (石田小)	大岡 真海(福栄小教頭) 古沢 博美(高・四番丁小教頭)																																	
4	総合学習「旅の思い出を伝える」 (社会・国語) 高田 宏隆 山田能之 六車 浩 梅本明宏	高田 宏隆 (相生小)	山田能之 六車 浩 梅本明宏 (津田小) (鶴羽小) (志度小)	佐藤 正文(造田小教頭) 岡根 淳二(観・観音寺南小教頭)																																	
5	総合学習「旅の思い出を伝える」 (国語) 上村京子 竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫	上村京子 (三本松小)	竹本麻季 松村和仁 古澤哲夫 (津田小) (北山小) (白鳥小)	小倉 健治(富田小教頭) 高橋 英武(高・亀阜小教頭)																																	
6	総合学習「旅の思い出を伝える」 (学級活動) 松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子	松岡輝子 (五名小)	松岡輝子 永坂邦彦 大野夕子 (津田小) (三本松小)(引田小)	熊田 正美(白鳥小教頭) 田井 秀典(三・上高野小教頭)																																	
9:55	学校提案「生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開」 松岡 輝子(津田小)																																				
10:10	分科会討議(学年部会による授業についての討議)																																				
10:50	移動																																				
11:00	分科会(実践交流)																																				
	<table><tr><th>学年(テーマ)</th><th>司会者</th><th>提案者</th><th>記録者</th><th>指導者</th></tr><tr><td>A 総合学習 のり方</td><td>金井宏諾 (坂・根石小教頭)</td><td>3年 尾原義則(小・鶴羽) 4年 丸岡小百合(香・中央)</td><td>福家正人 (高・東植田小)</td><td>山下 晃(木・庵治小教頭) 野島 悟(高・三溪小教頭)</td></tr><tr><td>B 中学年 算数のわり方</td><td>上井 嘉 (高・亀阜小)</td><td>4年 川田真司(津・瀬崎) 4年 山野正登(丸・城田小)</td><td>速本悟美 (綾・国分寺南小)</td><td>前田 高次(観・豊田小教頭) 伊藤 良春(高・瀬崎小教頭)</td></tr><tr><td>C 5年 算数のわり方</td><td>小比賀隆之 (香・直島小)</td><td>白井 優(三・詫間小) 岡本英孝(高・新塩屋町小)</td><td>中條寿代 (丸・城西小)</td><td>松下 繁美(綾・国分寺南小教頭) 柴田 英明(三・瀬崎小教頭)</td></tr><tr><td>D 6年 算数のわり方</td><td>木村勝美 (三・箱浦小)</td><td>宮武克明(綾・宇多津小) 小笠原学(木・神山小) 橋本英敏(香・安原小)</td><td>宮脇好美 (香・川東小)</td><td>香川 佳和(丸・飯野小教頭) 山田 知志(高・瀬崎小教頭)</td></tr></table>		学年(テーマ)	司会者	提案者	記録者	指導者	A 総合学習 のり方	金井宏諾 (坂・根石小教頭)	3年 尾原義則(小・鶴羽) 4年 丸岡小百合(香・中央)	福家正人 (高・東植田小)	山下 晃(木・庵治小教頭) 野島 悟(高・三溪小教頭)	B 中学年 算数のわり方	上井 嘉 (高・亀阜小)	4年 川田真司(津・瀬崎) 4年 山野正登(丸・城田小)	速本悟美 (綾・国分寺南小)	前田 高次(観・豊田小教頭) 伊藤 良春(高・瀬崎小教頭)	C 5年 算数のわり方	小比賀隆之 (香・直島小)	白井 優(三・詫間小) 岡本英孝(高・新塩屋町小)	中條寿代 (丸・城西小)	松下 繁美(綾・国分寺南小教頭) 柴田 英明(三・瀬崎小教頭)	D 6年 算数のわり方	木村勝美 (三・箱浦小)	宮武克明(綾・宇多津小) 小笠原学(木・神山小) 橋本英敏(香・安原小)	宮脇好美 (香・川東小)	香川 佳和(丸・飯野小教頭) 山田 知志(高・瀬崎小教頭)										
学年(テーマ)	司会者	提案者	記録者	指導者																																	
A 総合学習 のり方	金井宏諾 (坂・根石小教頭)	3年 尾原義則(小・鶴羽) 4年 丸岡小百合(香・中央)	福家正人 (高・東植田小)	山下 晃(木・庵治小教頭) 野島 悟(高・三溪小教頭)																																	
B 中学年 算数のわり方	上井 嘉 (高・亀阜小)	4年 川田真司(津・瀬崎) 4年 山野正登(丸・城田小)	速本悟美 (綾・国分寺南小)	前田 高次(観・豊田小教頭) 伊藤 良春(高・瀬崎小教頭)																																	
C 5年 算数のわり方	小比賀隆之 (香・直島小)	白井 優(三・詫間小) 岡本英孝(高・新塩屋町小)	中條寿代 (丸・城西小)	松下 繁美(綾・国分寺南小教頭) 柴田 英明(三・瀬崎小教頭)																																	
D 6年 算数のわり方	木村勝美 (三・箱浦小)	宮武克明(綾・宇多津小) 小笠原学(木・神山小) 橋本英敏(香・安原小)	宮脇好美 (香・川東小)	香川 佳和(丸・飯野小教頭) 山田 知志(高・瀬崎小教頭)																																	
12:10	昼食・休憩																																				
13:00	開会式																																				
13:20	研究発表 本部提案「豊かにたくましく生きる人間づくりの教育」 ～生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開～ 提案者 旅田敏弘、喜多文彦(附属高松小)																																				
13:50	休憩																																				
14:00	パネル討議(3校提案) 「全国大会に向けての研究方向を探る」 池田理恵(高・四番丁小) 金崎美穂(高・亀阜小) 寺島俊秀(坂・中央小) 司会者 池田孝徳(小・瀬崎小教頭)																																				
14:45	休憩																																				
15:00	講演 「社会科授業改善のポイント」 講師 文部省教科調査官 北 俊夫 先生																																				
16:15	閉会式 記録者 福家 寿夫(坂・府中小)																																				

平成10年 2月16日

各都道府県教育委員会教育長 様
各市町村教育委員会教育長 様
各 小 学 校 校 長 様
関 係 各 位

全国小学校社会科学研究協議会
会 長 羽 豆 成 二
平成10年度 全国小学校社会科学研究協議会
第33回 四国地区小学校社会科学研究協議会
香川大会実行委員長 上 川 敦 生

平成10年度 全国小学校社会科学研究協議会
第 3 3 回 四国地区小学校社会科学研究協議会
平成10年度 香川県小学校教育研究会社会科部会

香川大会の開催について

開催期日 平成11年 2月11日(木)、12日(金)

(第一次 ご案内)



初春の候、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、「瀬戸内文化の創造」を目指している四国の香川におきまして、全国小学校社会科学研究協議会・四国地区小学校社会科学研究協議会・香川県小学校教育研究会社会科部会の研究大会を開催することとなりました。

この香川大会は、21世紀に生きる子どもの教育のあり方を求めて

研究主題 未来に生きる人間づくりの教育

—新教育課程の構想による 総合的な学習 の実践—
社会・生活・道徳

を主題に、研究を重ねているところです。各会場校共に、学校の特色ある教育課程の編成による社会科を核にしながら、生活科・道徳等との統合を図った総合的な学習と、教材内容の厳選に立つ課題単元による社会科学学習の研究を進め、当日の授業公開に備えているところです。

つきましては、貴職をはじめ、関係教職員の派遣につきまして特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

大会概要

1 期 日 平成11年2月11日(木) 建国記念の日
12日(金)

2 会 場 第1日目 2月11日(木) 全体会 記念講演
高松市民会館 高松市番町1-8-22 TEL(087)839-2888

第2日目 2月12日(金) 会場校別研究会

第1会場 高松市立四番丁小学校 高松市番町1-5-1 TEL(087)851-8390 FAX(087)851-8391
第2会場 高松市立亀阜小学校 高松市亀岡町10-1 TEL(087)861-2013 FAX(087)861-2040
第3会場 坂出市立中央小学校 坂出市寿町3丁目1-2 TEL(0877)46-2124 FAX(0877)46-2147

3 各会場校の特色ある研究主題

大会主題 未来に生きる人間づくりの教育

第1会場 - 地域文化をつくる教育 -
文豪「菊池寛」を生んだ文化、情報の拠点「サンポート高松」の未来都市づくりに課題をもつ体験を軸として

第2会場 - 一人立ちの教育 -
瀬戸内の歴史・文化を峰山・瀬戸内海・玉藻城から探り、新しい文化を発信することに課題をもつ体験を軸として

第3会場 - 豊かな生き方を探究する教育 -
先人「久米通賢」と塩づくり・瀬戸大橋の流通文化・サウサリート市との国際交流からの発信に課題をもつ体験を軸として

4 主 催 全国小学校社会科学研究協議会 香川県小学校教育研究会
四国地区小学校社会科学研究協議会 香川県小学校社会科学研究会
四国四県社会科教育連絡協議会

5 後 援 香川県教育委員会 高松市教育委員会
(予定) 坂出市教育委員会 香川県小学校校長会
香川県教育弘済会 四国新聞社
西日本放送 N H K 高松放送局

6 講 師 文部省教科調査官 押谷由夫先生
(予定) 文部省教科調査官 北俊夫先生
筑波大学教授 高野尚好先生

7 記念講演 講師(交渉中)

8 日 程

・第1日目 2月11日(木) 全体会

13:00	13:30	14:00	14:50	16:10
受 付	開 会 式	全 体 会 基調提案、3校提案	記 念 講 演	閉 会 式 各県代表交流会

・第2日目 2月12日(金) 会場校別研究会(各会場校)

9:00	9:30	12:00	13:00	15:00	16:00
受 付	公開授業・各県代表提案者と語る会 (分科会)	昼 食	発表校・各県代表の研究から 課題を語る会(分科会・全体会)	講 演	閉 会 式

9 分科会 提案地区分担一覧

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
学年	分科会	高松市立四番丁小学校	高松市立亀阜小学校	坂出市立中央小学校
3 年	A	群 馬	京 都	大 阪
		香 川	香 川	香 川
	B	山 口	愛 媛	栃 木
		高 知	神 奈 川	新 潟
4 年	A	岐 阜	千 葉	徳 島
		香 川	香 川	香 川
	B	奈 良	岡 山	兵 庫
		鹿 児 島	石 川	沖 縄
5 年	A	東 京	福 岡	三 重
		香 川	香 川	香 川
	B	静 岡	島 根	福 井
		長 崎	秋 田	佐 賀
6 年	A	北 海 道	鳥 取	埼 玉
		香 川	香 川	香 川
	B	愛 知	宮 城	広 島
		滋 賀	茨 城	和 歌 山

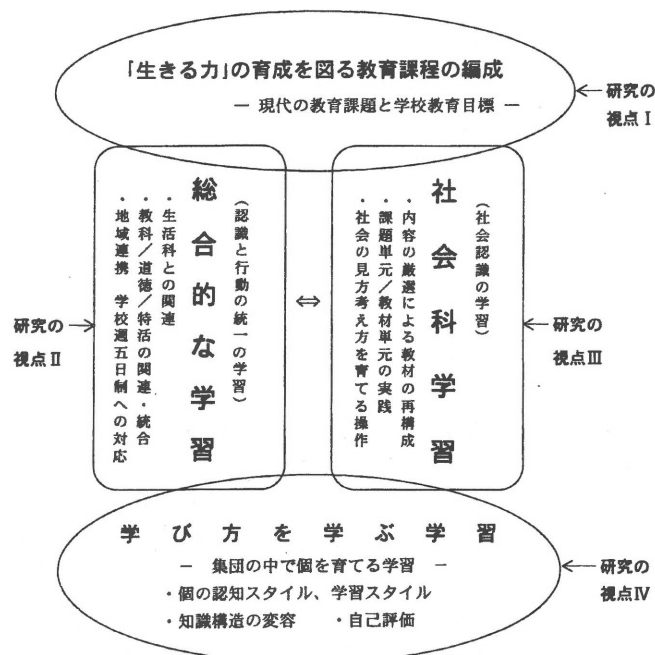
10 大会参加費 3500円(資料代を含む)

11 連絡先 大会実行委員長 香川県高松市立木太小学校 校長 上川敦生
所在地〒760-0080 香川県高松市木太町3480-1
電話 087-861-6337 FAX 087-861-6358

香川大会事務局 香川大学教育学部附属高松小学校 旅田敏弘
所在地〒760-0017 香川県高松市番町5丁目1-55
電話 087-861-7108 FAX 087-861-1106

12 図書発刊予定 「未来に生きる人間づくりの教育」(明治図書)

香川大会 研究の全体構想



研究の視点Ⅰ 「生きる力」の育成を目指した教育課程改革が求められている。国際化、情報化、環境、人間などの教育課題と、時代を超えて変わらない価値をもつ学校教育目標との統一を図る「特色ある学校づくり」をどう進めていくか探求する。

研究の視点Ⅱ 「生きる力」の育成の中核となる「総合的な学習」では、子どもの課題意識、家庭や地域の願い、学校の歴史や伝統、地域の学習材を踏まえ、どのように体験と表現の連続を図ったり、教科や道徳・特別活動を関連・統合付けたりすればよいかの単元化を試みる。

研究の視点Ⅲ これからの新社会科の創造を目指した厳選による教材の再構成を志向する。その具体的方途として従来の領域にこだわった教材の構成から脱却して、子どもの課題意識の連続と高まりに基づいた課題単元の実践に着手する。

研究の視点Ⅳ 授業を集団の中で個と個が互いに支え合い高め合う場とするために、学び方を学ぶ学習をどう展開していくか。個の認知スタイル・学習スタイルを把握し、個が生きる学習とするための支援・援助、自己評価など授業改造への道を探る。

分科会研究主題

※ は、各校の特色ある分科会研究主題

学年		高松市立四番丁小学校	高松市立竜阜小学校	坂出市立中央小学校
3年	A	生活科と総合学習 総合学習への発展を目指した生活科の在り方	総合学習の学び方 教育課題を自らの課題として解決していく学習の在り方	社会科の内容厳選 子どもの社会認識の問い直しによる内容厳選の在り方
	B	総合学習の単元化 子どもの課題意識と、体験を重視した単元化の在り方	生活科と総合学習 総合学習への発展を目指した生活科学習の在り方	生活科と総合学習 総合学習への発展を目指した生活科学習の在り方
4年	A	社会科の内容厳選 子どもの社会認識の問い直しによる内容厳選の在り方	個の育ち 集団活動における個の育ちを促す自己評価の在り方	地域の先人の生き方から学ぶ学習 先人の業績を追体験し、自らの生き方を探る学習の在り方
	B	総合学習の学び方 教育課題を自らの課題として解決していく学習の在り方	総合学習の単元化 子どもの課題意識と、体験を重視した単元化の在り方	総合学習の単元化 子どもの課題意識と、体験を重視した単元化の在り方
5年	A	社会科の学び方 子どもの認知の過程を重視した、個に応じた学習の在り方	社会科と他教科の関連 課題解決を総合的に行う社会科と他教科の関連の在り方	社会科の学び方 子どもの認知の過程を重視した、個に応じた学習の在り方
	B	社会科と他教科の関連 課題解決を総合的に行う社会科と他教科の関連の在り方	総合学習と道徳 人間の生き方に課題をもち、実践力を育てる学習の在り方	社会科と他教科の関連 課題解決を総合的に行う社会科と他教科の関連の在り方
6年	A	地域の人材・文化 地域の伝統・文化に学習材を求める開かれた学校の在り方	社会科の学び方 子どもの認知の過程を重視した、個に応じた学習の在り方	コンピュータを取り入れた学習 国際化の視点に立って、情報を処理活用する学習の在り方
	B	心の健康をつくる教育 心や体の悩みに応え、生きる力を育てる教育の在り方	社会科の内容厳選 子どもの社会認識の問い直しによる内容厳選の在り方	総合学習の学び方 教育課題を自らの課題として解決していく学習の在り方

生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開

研究主題

心豊かにたくましく生きる人間づくり

横断的・総合的な学習の展開を通して

1 研究主題について

(1) 主題設定の理由

第15期中央教育審議会による第一次・第二次答申が行われた。そこでは、学校週5日制の完全実施や、学校と教育課程のスリム化、教育内容の厳選と授業時数の縮減、学校と家庭・地域との新しい協力関係によって、子どもたちの生活に「ゆとり」を生み出すとともに、これからの変化の激しい社会をたくましく心豊かに生きていくことができるようにするために、「生きる力」として子どもたちが生活の中に自分の課題を見つけだし自ら学び考え判断・行動しながら問題をよりよく解決していくことのできる資質や能力を育てていくことの重要性が強調されている。

子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいくためには、言うまでもなく、各教科、道徳、特別活動などそれぞれの指導に当たってさまざまな工夫をこらした活動を展開したり、各教科等との間の連携を図った指導を行うなど様々な試みを進めることが重要であるが、「生きる力」が全人的な力であるということを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような手だてを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる。

今日、国際理解教育、情報教育、環境教育などを行う社会的要請が強まってきているが、これらは、いずれの教科等にも関わる内容をもった教育であり、そうした観点からも、横断的・総合的な指導を推進していく必要性は高まっていると言える。

そこで、本校では各教科、道徳、特別活動等について、相互に十分に連携を図り、カリキュラム全体を工夫しながら教育活動を進めることにした。そして、各教科の教育内容を厳選することにより時間を生み出し、一定のまとまった時間（本校では総合学習の時間と呼ぶ）を設けて横断的・総合的な指導を行うことにした。

(2) 主題の意図するもの

「人間として生きる力」を、本校の児童の実態、保護者の願い、地域の願い、教師の願いなどを考え合わせ、次のようにとらえる。

児童像「自分から進んで学ぶ子ども」

- ・ 社会人として豊かな心を持ち、価値的な生き方のできる心と能力
（自立心、豊かな感性、科学する心、問題解決能力と資質、専門性の基礎等）

児童像 「進んでみんなのために働く子ども」

- ・ 先人の築き上げた文化・価値を理解し、さらに発展させるとともに新しい文化価値の創造を目指して常に学び続けられる心と能力（郷土愛、国際理解、向上心等）

児童像 「みんなとなかよくできる子ども」

- ・ 自然と共生しながら、自他の存在を認め合い、よりよい人間関係を築き上げられる心と能力（自律心、協調性、寛容の精神、思いやり、ボランティア精神等）

(3) 横断的・総合的な学習を進め方

- ① 学習活動をテーマに即して重点化し、各教科に分散している内容を統合して指導を深める。
- ② テーマに即して各教科にまたがる内容を横断したり総合化したりして単元構成をする。
- ③ 教科、道徳、特別活動の性格をそのまま生かすことによって、より柔軟なカリキュラムを構成する。
- ④ 教科では主に「認識」を、道徳や特別活動では主に「行動」を、というように「認識」と「行動」の統合を図り、常に生活に密着したカリキュラムを構成する。
- ⑤ 学校や地域の実態を加味し、より实际的で柔軟なカリキュラムを構成する。
- ⑥ 一つのまとまりをもった単元構成をし、本年度は年間を通した計画を立てる。

2 研究の推進

(1) 教育課題、学校課題より、次の4つの視点に立ち、総合学習を考えていく

「国際化」

- ・ 国際社会の中で生きていく日本人としての資質や能力を育成する。
（自国文化理解、異文化理解、コミュニケーション能力）

「環境」

- ・ 人間と自然が共生していくための積極的な環境保護や環境保全を実践できる資質や能力を育成する。

「人間」

- ・ 自然と共生しながら、自他の存在を認め合い、よりよい人間関係を築こうとする豊かな人間性を育成する。

「情報化」

- ・ 情報の持つ価値や情報化の陰の部分の正しく認識し、主体的に対応できる情報処理能力を育成する。

(2) 教育目標達成と教育課題解決の向けて単元を構成する。

学年	教育目標	教育課題	国 際	人 間	環 境	情 報
1	より よく 生 き る 子 ど も	みんなとなかよ	・	◎	○	○
2		くできる子ども	・	◎	○	○
3		自分から進んで	・	◎	○	○
4		学ぶ子ども	○	◎	◎	○
5		進んでみんなの	○	◎	◎	○
6		ために働く子ども	○	◎	○	◎

本年度の指導の重点は、「人間」におき 学年が進むにつれて、4つの視点が広がっていくように系統だてを考えた。

昨年度は、生きる力の心の教育（徳育）として、豊かな心の育成としたが、本年度は、豊かな人間性とし「人と人とのあり方、人間関係」を強調することにした。

総合学習での学力

学習対象 ----- 人間（心の発達、人格、個性等）・自然

{内容知} 人間関係（友達、地域、高齢者、地域で働く人等とのかかわり）

方法的なアプローチ ----- 個人差や個性への着目

{方法知} 多様な関係への積極的なかかわり・創造的な表現等

(3) 各学年の総合学習のテーマと全体計画

よりよく生きる子どもづくり

問題解決的学習(探究的な学習)		豊かな人間性をはぐくむ活動		
教科学習	総合学習	道徳と特別活動の関連を図る		
	各学年のテーマと内容	核となる体験活動		
体育	6年 まぼろしの城 「雨滝城」のなぞを探ろう	松 原 清 掃	学 年 別 社 会 見 学	津 田 小 祭 り
家庭	5年 東瀬戸から世界を見つめよう			
図工	4年 美しいふるさとを未来に残そう			
音楽	3年 津田町をすてきな町にしよう			
社会	2年 津田町のたんけんをしよう			
理科	1年 まつばらたんけんをしよう			
算数				
生活				
国語				
国際化		環境	人間	情報化
ゆとりのある教育環境 地域に開かれた学校づくり				

(4) 教育内容の厳選と授業時数の縮減による年間計画

松原タイムと教科、道徳、特別活動を縦のつながりや横の関連を考えながら計画していく。

総合学習年間計画

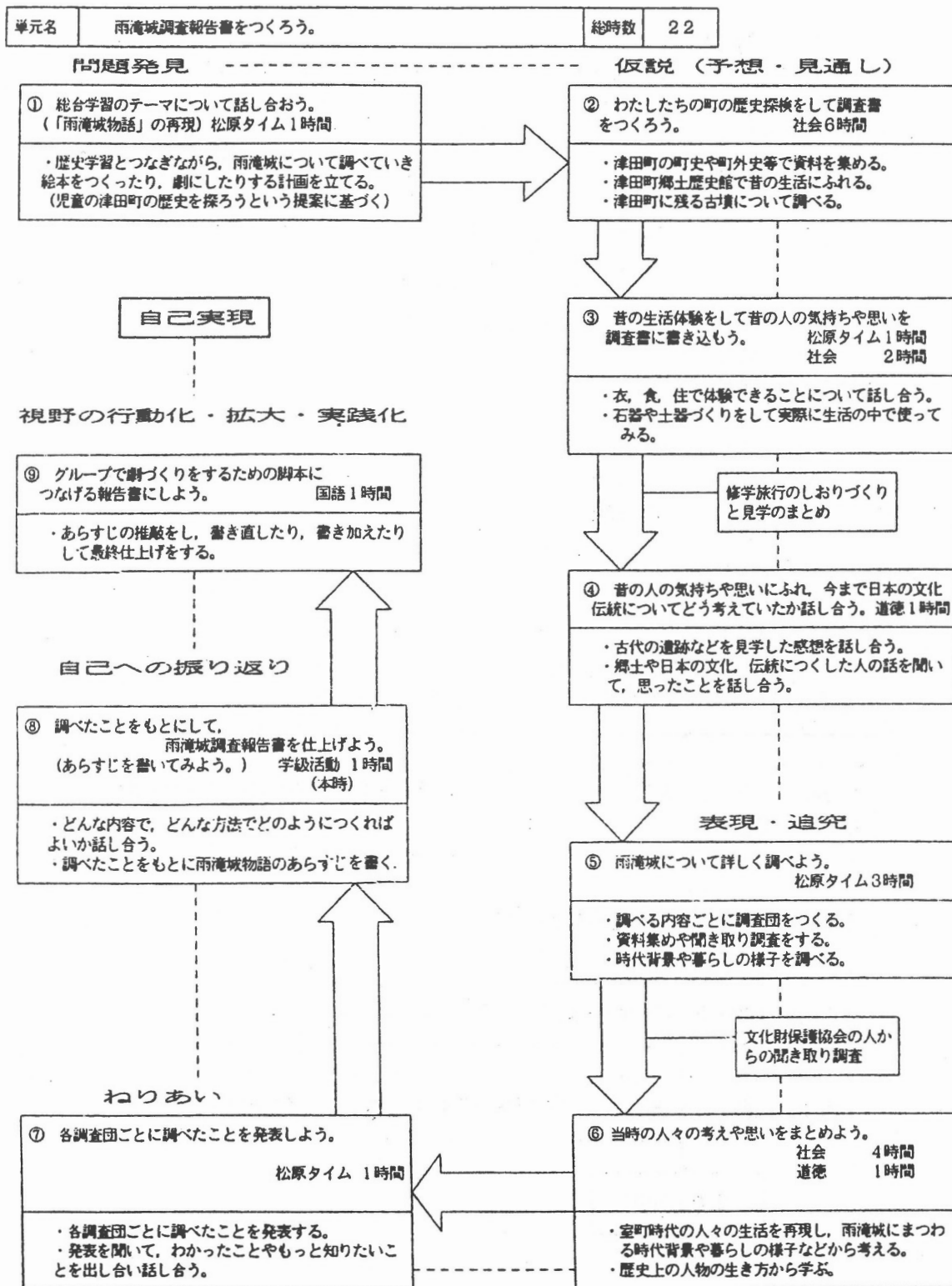
6年 「まぼろしの城 雨滝城のなぞを探ろう」

月	主 な 活 動	教 科	道 徳・特 活	松原タイム	日 常 活 動
4	雨滝城調査報告書をつくらう ・津田町の昔の様子に好奇心をもち、自分の知りたいことを調べる。 ・昔の生活体験をする。	②社会 わたしたちの町の歴史探検 (郷土館見学) 6/6		① 総合学習のテーマについて話し合う 1 ③ 昔の生活体験をする 1	文化財保護協会の方にお話をうかがったり、町史等を調べたりして資料を集める
5	食生活の様子 建物の様子	③社会 縄文土器をつくらう 2/2	④道徳 登呂の花さかじいさん 1 (我が国の文化や伝統に誇りをもつ)	⑤ 調べる計画を立てグループをつくる (調査団) 1	修学旅行
6	衣服の様子 当時の人々の考えや思い	⑥社会 3人の武将と全国統一 4/4	⑥道徳 勝 海舟 1 (文化・伝統守った先人の努力、国を愛する心)	⑤ 自分のテーマについて調べる 2	
7	・雨滝城にまつわる時代背景や暮らしの様子を調べる。 ・調べたことをもとに分かりやすい表現の工夫をして発表する。 22時間	⑧国語 伝えたいことがはっきりと表れるように 1/7	⑥道徳 勝 海舟 1 (文化・伝統守った先人の努力、国を愛する心) ⑧学活 雨滝城物語のあらすじをつくらう 1	⑦ 調査報告書をつくり発表する。 1	
8	物語づくり、絵本づくりをしよう				

国		題				社 会		時
月	国 語		作 文		書 写		社 会	数
4	1 まぼろしの町 ・ 詩を競もう	7 3	・ 事実に対する感想 や意見 ・ 6年生になって	3	1 漢字の組み立て方 (書)	3	1 日本の歴史 (1) わたしたちの町の歴史探検(岡土町見字)(総合) (2) 米づくりのむちから 古墳のくにへ	6 6
5	2 人間がさばくを作った ・ 文の骨組みを作ることば	6 1	・ 自分の考えをはっきりさせてから人の意見を聞く ・ 修学旅行記	3 1	2 漢字の組み立て方 (例) ・ 漢字の両数	3	・ 縄文土器をつくらう (総合) (3) 平武天竺と奈良の大仏(修学旅行記) (4) 藤原道長と貴族のくらし (5) 源朝綱と鎌倉武士	2 5 3 3 5
6	3 森のいのち 4 ことばと文化	7 6	・ 一枚文庫 ・ 地味な組み立てを工夫して	5 3	3 文字の大きさ (生物) ・ 手紙	3 1	(6) 武士の文化と民衆の成長 (7) 3人の武将と全国統一 (総合)	4 4
7	・ 話の構成と熟話の意味 ・ 読者のまど	2 2	5 伝えたいことがはっきり表れるように (総合)	7 (1)	4 漢字の組み立て方 (台風)	3	(8) 徳川家光と江戸幕府	6

月	特 別 活 動			時 数	通 常		
	児童会活動	学 級 活 動			重点指導内容	主 題 名	時 数
		学習や生活の改善	日常生活や学習への援助				
4	委員会活動①	・ 係や委員会を決めよう ・ 楽しい事学旅行 ・ 1年生を迎える会	・ やるぞぼくらは 8年生（人権）	4 2-1 1-4 4-1	言葉の真実 手品師 チャイコフスキーの「小犬のワルツ」	1 1 1	
5	1年生を迎える会① 委員会活動①	・ 花いっぱい学校にしよう ・ 学級の問題について	・ あいさつとことばづかい	3 4-6 4-7 4-2 4-7	学校板の花だん 豊島の花さかじいさん 幸仕委員会活動 藤澤舟	（総合） （総合） 1 1	
6	委員会活動①	・ 松原清輝に向けて	・ ブール使用と安全 ・ 自主勉強の進め方	3 4-3 1-1 4-1 1-2	ほんとうのアマチュア精神 このごろのわたし 一枚の新聞 加代ちゃんすてき	1 1 1 1	
7	委員会活動①	・ 校内水泳大会について	・ ふれあい活動や委員会活動から ・ 夏休みの生活 ・ 情報活用の仕方 （総合）	3 4-4 1-3 1	母の仕事 移動教室の夜	1 1	

(5) 単元を構想するにあたって



3 生きる力を育む授業の展開

(1) 主体的で問題解決的な学習

①子どもにとって切実な学習問題とは何であり、どう設定していくかを考える。

(学習材の選択)

②教師の支援を教授レベルで明らかにしていく。

- ・助言の中身
- ・励まし（肯定的評価）のあり方
- ・子どもの思考や活動を促す働きかけや発問（開かれた発問）を明らかにする。（指導案の工夫）

③子どもが主体的に学習を進めていくための条件を設定する。

- ・学習環境づくり（背面掲示、学級掲示の工夫）
- ・学習の場の設定

④時間割や日課表を弾力化していく。

- ・朝の活動の時間の活用
- ・松原タイムの位置づけ

⑤子どもが思いきり自分を発揮でき、そのことが何よりも大事にされる学級づくりをする。

- ・支持的風土、受容的風土づくり

(2) 体験的で活動的な学習

子どもの認識の過程

感覚を通して事物や事象をとらえ、或いは体で物事を知る。

「なぜ、どうして」と問いかけつつ、科学的で合理的な知識や技術に置きかえ概念化を図る。

感覚的にとらえたものを理屈で説明する。

自らの生活や社会生活の向上を図り、豊かなものにしようとする。

実践力、行動力、表現力として自分自身や生活と結びつけて展開する。

生きる知恵

生きる力は、体験に支えられ、生活と結びついている。そこで、次の点に留意して学習を進めた。

- ①生活科の意義を再認し、活性化を図る。
- ②地域素材の教材化や人材の活用を図る。
- ③特別活動と教科等の関連を考える。
- ④学習の場を教室に限定せず、地域など「生きた学校」へと拡大していく。

(3) 個に応じ、個の確立を促す学習

- ①学習集団を学級という集団に固定するのではなく、学習場面、活動内容などに応じて個別、グループ、縦割りなどと集団の編成を弾力化する。

(学級、学年、縦割り、全校等)

- ②教師が個々の対応のレパートリーを広げておく。

(表現物をよくするための技法を情報として用意する。TTの導入、情報コーナーの設置)

- ③ワークスペースとしての余裕教室の活用をしたり、地域社会を学習の場として位置付けたりする。

(生活科教室1・2 空き教室、講堂、郷土館、公民館等)

- ④教師が一人一人の子どもを深く理解し、十分に実態等を把握しておく。

- ・子どもの心の中の内面世界の理解
- ・多様なものさしでの多面的理解
- ・子どもの育ち方や生活の実態把握
- ・子どもの「よさ」の理解

- ⑤学びの過程の評価を大切にする。

過 程	教 師 の 姿 勢	児童の意識
認める	子どもの考えを受容し、関心を持つ。	つかむ
共感する	子どものよさや成長に共感し援助する。	
意識化させる	考えを確かめ、つまずきの原因などを意識させる。	高める
方向を示す	活動の方向をアドバイスする。	
広める	仲間の中で、活動や思考を価値づけ、よさを広げていく。	深める
発展させる	学習を振り返り、さらに発展させる。	つなぐ

(4) 総合学習の実践

内容知を厳選し、いかに学ぶか、どのように対象に迫っていくかという学びの方法、学び方にかかわる知識や技術「方法知」を重視していく。

・ 内容知の厳選の視点

○「総合単元」による絞り込み

新しい社会の変化への対応という視点から、各教科・領域にまたがって横断的・総合的に内容を絞り込む。

○教育課程の一貫性から見た絞り込み

学年段階、学校段階から見て、重視したり、繰り返したりしている内容は重点化を図り、スリム化する。

○教育的価値の高いものの絞り込み

子ども自身の生きる基礎をなし、子ども主体の発展的な学習の基本となるものが何であるかという教育的価値の高い内容に絞り込む。

○学校外教育への移行

学校外教育を含めた学習のネットワーク化の立場から、学校教育から家庭教育或いは地域教育に移したほうが望ましい内容は移行し、精選を図る。

○教育課程のバランス

知徳体、或いは子どもの学校生活のリズムや彩りという点から、ゆとりある調和した学校生活を確保するという視点から、学校の教育課程全体を見直し、バランスを確保する。

4 年間計画

(1) 松原タイムの計画

○1. 2年生については、生活科での計画が主になるので、この時間を利用したもののみ記入している。

月	日	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4	19	☆	絵本づくりの計画を立てよう	(花いっぱい町づくり計画)	環境調査団結成(テーマ決定)	マリン資料館の計画を立てよう	昔の生活を調べよう
	17	☆	☆	活動の計画を立てよう	松原についてインタビューしよう	いろいろな漁法をパネルにしよう	昔の生活体験をしよう(土器づくり)
5	31	まつばらで遊ぼう	☆	絵本づくりをしよう①	梅川を調べに行こう	海洋牧場のパネルをつくろう	津田町の昔の様子を調べよう
	7	ハマビルガオが咲いたよ	野菜博士に話を聞こう	" ②	川の様子を調べた新聞を作ろう	劇の練習をしよう①	雨滝城ってどんな城だろう
6	21	海岸を探検しよう	☆	" ③	海岸のごみを調べよう	" ②	雨滝城について調べよう①
7	5	海へ行こう	サラダパーティをしよう(招待状)	" ④	海岸のごみを減らす新聞を作ろう	劇の発表をしよう	" ②
	6	☆	絵本づくりをしよう①	活動の計画を立てよう	松原の昔、今、未来を調べよう	マリンレストランの計画を立てよう	調査団の報告をしよう
9	20	まつばらのことをもっと知りたいな	" ②	グループごとに調べよう①	松原を守る新聞を作ろう	津田町の海産物について調べよう	劇団を結成し、雨滝城物語をつくろう
	4	"	秋まつりの準備をしよう	" ②	長尾町のごみ処理のしくみを調べよう	海産物製造工場を見学しよう①	雨滝城物語をつくろう(絵本づくり)①
10	18	2年生の秋まつりにいこう	秋まつりに1年生を招待しよう	「町づくり新聞」をつくろう①	スイスの環境保護を調べよう	" ②	" ②
	1	秋のまつばらを探検しよう	☆	" ②	調べたことをまとめよう①	海産物を使った郷土料理をつくろう①	" ③
	15	"	☆	" ③	" ②	" ②	" ④
11	29	☆	お年寄りともちつきをしよう	新聞発表会をしよう	環境新聞を地域の人に配布しよう	マリンレストランのメニューをつくろう	劇づくりをしよう①
	6	☆	お年寄りともちつきをしよう	絵本づくりをしよう①	環境新聞をインターネットで広めよう	マリンレストランを開こう①	シナリオ・大道具②
12	20	☆	お世話になった町の人に年賀状を書こう	" ②	未来の津田町を考えよう(作文)	" ②	小道具・衣装③
	17	冬のまつばらを探検しよう	☆	自分たちができることを話し合おう	ぼくたちにできることは何だろう	未来の津田町を見つめよう	劇の練習をしよう①
1	31	まつばらを紹介しよう	☆	グループで活動計画を立てよう	グループでボランティア活動をしよう①	瀬戸東自動車道を見学しよう	" ②
	7	"	探検発表会の計画を立てよう	自分のできる町づくりを実践しよう①	" ②	未来の津田町のマップをつくろう①	" ③
2	21	"	探検発表会の練習をしよう	" ②	1年間活動を振り返ろう	" ②	" ④
3	7	☆	探検発表会をしよう	1年間の活動を振り返ろう	リサイクルした物をプレゼントしよう	「こんな津田町にしたい」を発表しよう	劇を発表しよう

豊かにたくましく生きる人間づくりの教育

－ 生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開 －

香川県社会科教育研究会

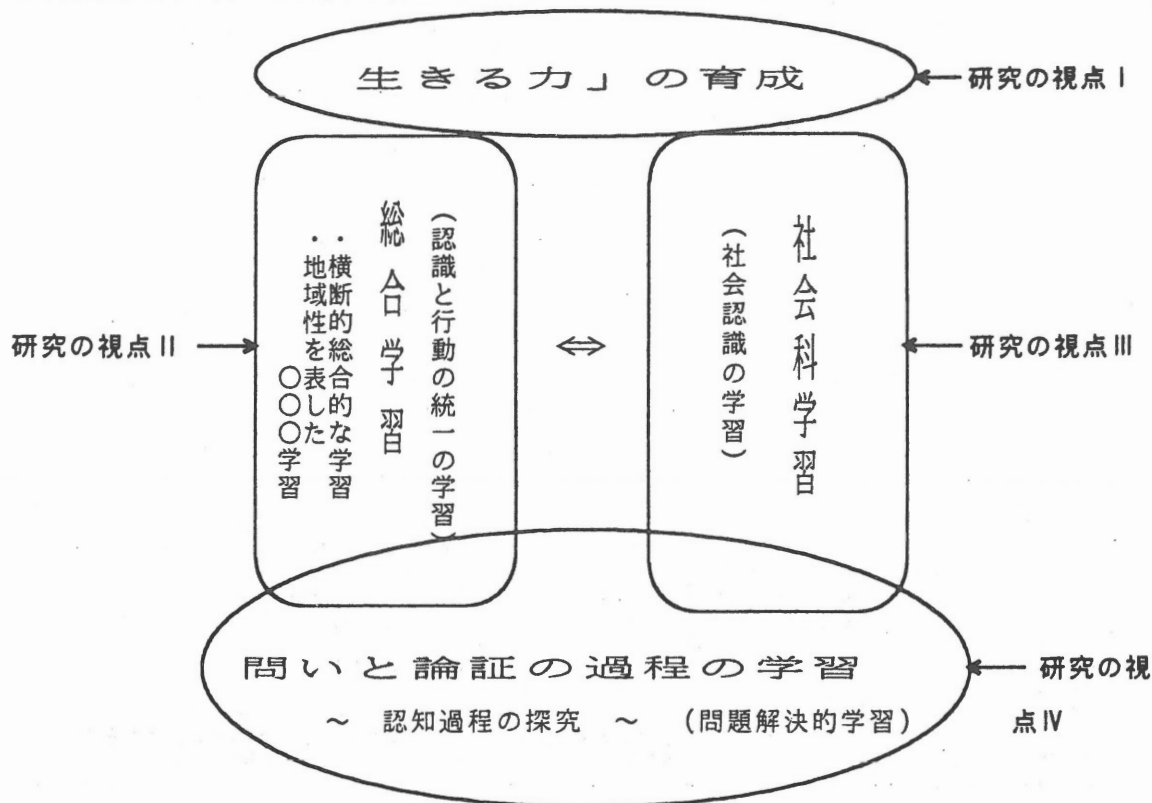
旅田 敏弘

喜多 文彦

はじめに

第15期中央教育審議会による第1次答申と第16期に引きつがれた第2次答申では、21世紀を展望した我が国の教育の在り方ということで、子どもに「生きる力」と「ゆとり」をとということが示された。教育課程の編成と学習内容の厳選、授業研究の在り方等の検討が示されたのである。さらに、社会の変化に対応する教育ということで、横断的・総合的学習を推進していくことが叫ばれたのである。

そこで、香社研としては、本年度の研究テーマを「豊かにたくましく生きる人間づくりの教育－生きる力の育成を図る社会科・総合学習の展開－」とし、平成10年度全国社会科研究大会に向けた研究の視点を明らかにしておきたい。



Ⅰ 「生きる力」の育成 ～豊かにたくましく生きる人間づくり～

(1) 真の学力を能力・人間・知識から観る

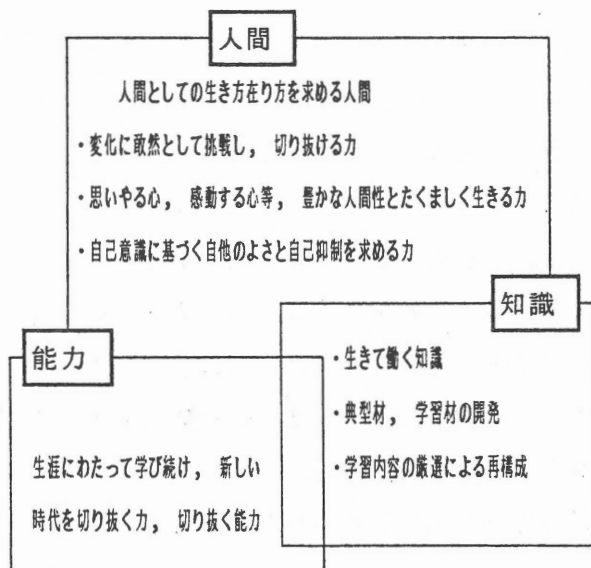
新しい学力観については、「今までの知識の量的な習得への偏りを修正して、子どもの成長・発達や将来の生活に生きて働く能力（学ぶ意欲・思考力・表現力・判断力など）や資質（創造性豊かな個性・社会性）の育成を重視し、人間としての生き方・在り方を求める」と説明されている。即ち、児童一人一人の学ぶ意欲を大切にしながら、思考力、判断力、表現力などの能力育成を重視したものである。

社会の変化に主体的に対応できる能力を育成することは、21世紀を生きる児童にとって必須条件といっても過言ではない。だが、その一方で社会の構成員であり、自らの努力で公民的資質を高めなければならない側面も有している。従って、真の学力は思考力、判断力、表現力などの能力育成にとどまらずに、それらの能力を生かして、人間としての生き方・在り方を考える学力ととらえたい。総合的に、生きて働く力としてとらえるということである。そのためには、単に社会事象を知る、人々の営みが分かるというだけでなく、それらのよさが分かり、自分を理解し、社会の構成員としての誇りがもてる。また、課題に対しては、自ら社会に働きかけられるようにすることが大切である。

真の学力の構造～生きる力の育成～

真の学力は、これに知識を加え、学力の構造を「生きる力」の育成から右図のようにとらえたい。

すなわち、真の学力育成の中核を、人間とすることである。人間としての生き方・在り方、もっといえば、「自他共に生き、互いに人間としてのよさを出し合い、認め、高め合う」ことを中核とする。そして、それを支えるものに、能力と知識とを考えたいのである。



知識については、知識の量的な偏りを改めなければならないとしても、知識を軽視してはならない。子どもの認知過程を探究すると思考力・表現力・判断力などの能力は、知識と深い関わりをもって育成されるのである。記憶中心の知識ではなく、生きて働く知識としてである。知識と能力との関わりは、能力を育てる知識と、新しい知識を得る能力の二つの関わりをもつ。思考力・表現力などの能力は、子どもの発達を促す内容をもつ知識を媒介として育てられ、新しい知識を獲得していく。そして、その知識が生きて働く知識として、より高次の思考力・表現力などを育てていく。

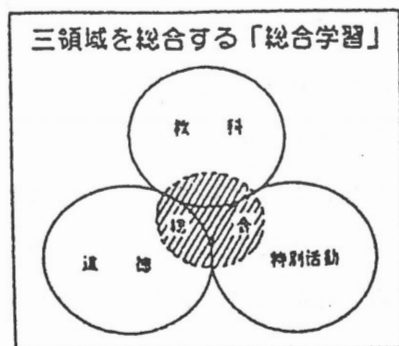
このように、知識は、能力とともに生かされ、高められていくものであることからして、貧弱な知識や情報では役に立たないのである。そして、この知識は、一時間の授業の過程では、授業の始めの一人一人の子どもの知識構造と一時間の授業の終わりの知識構造とは、変容し、深化していなければならない。このように知識は、重視されるべきなのである。

（２）真の学力育成を目指す教育課程の編成

我が国の教育課程は、教科、道徳、特別活動の三領域に定められている。そして、教育課程は各学校の校長が編成するのであるが、三領域は、それぞれに目標が異なっており、三領域それぞれに教育課程を編成している学校がほとんどである。（１）で述べた真の学力のうち人間としての生き方・在り方を求める教育課程は道徳の時間だけに任されている場合が多い。体験を重視し、学ぶ意欲をもって取り組む特色のある教育課程を編成することは難しいようである。

真の学力を育成するには、このばらばらな教育課程を総合し、体験を軸に子どもの主体的な学習や活動を創ることが大切である。総合的に生きて働く力の育成を目指し、人間づくりということを根底とした総合学習の構想が必要なのである。

このことを図にしたのが右図である。



II 総合学習

(1) 総合学習の構想

総合学習は教科や道徳の学習と同じように「単元化」を図ることが前提である。まず、課題があり、それを解決していく見通しをもつことから始まる。そして、課題が連続しつつ、目標を達成し解決していく一連の学習（活動）なのである。

(2) 総合学習の特色

①三領域を総合する課題と体験の軸をもつ

第1の特色は、学校の子どもの課題意識、家庭や地域の願いや教育観、学校の歴史や伝統を踏まえ、どんな体験を軸にするのが最大のポイントである。そして、それは、教育課程の三領域の教科、道徳、特別活動のどれを中心の活動として取り組むのかということになる。学校の特色を生かして、次のような総合学習が考えられている。

<例>

教科中心	・ 地域の自然に課題や体験をもつ構想 ・ 地域の社会に課題や体験をもつ構想 ・ 地域の文化に課題や体験をもつ構想
道徳中心	・ 命を大切にするという課題や体験をもつ構想 ・ 豊かな心をもち、地域の人々と結びつく構想
特別活動中心	・ 奉仕や福祉活動、地域行事への実践化を強化する構想

留意点としては、教師の意図が強くなりすぎ、あれもこれもと関連づけすぎた単元化にならないことや反対に、活動主義にはしり、学力低下にならないようにすることである。このことに留意して実践を進めていってほしい。

②表現物を作り上げることを目指す

第2の特色は、課題解決の過程を表現物に表すことである。表現物に、その学年らしい内容と表現方法が表れることがポイントである。表現力の育成ということで、その系統を明らかにし、その学年の表現力の系統を踏まえ、個性を伸ばしていくことが大切である。

③子どもが主体的に生きて働く実践を促す

開かれた学校として、地域の人々と交流したり、地域に人材を求めたりして、体験の場を地域に求めていくことは大切である。また、他の学校と交流したり、社会に生きて働く奉仕や福祉に実践の手を差し伸べていくというように実践を促すということも、豊かにたくましく生きる人間を育成する上で大切なポイントである。

(3) 教科統合を図る

「総合学習は教科や道徳の学習と同じように『単元化』を図ることが前提である。まず、課題があり、それを解決していく見通しをもつことから始まる。そして、課題が連続しつつ、目標を達成し解決していく一連の学習(活動)なのである。」ということを(1)で述べたが、この単元化のためには、教科統合を図ることが必要である。

教科統合をし、関連と統合を図らなければ、目標の達成や解決はできないといってもいい。そこで、「横断的」という面の研究が求められているのである。

①関連と統合

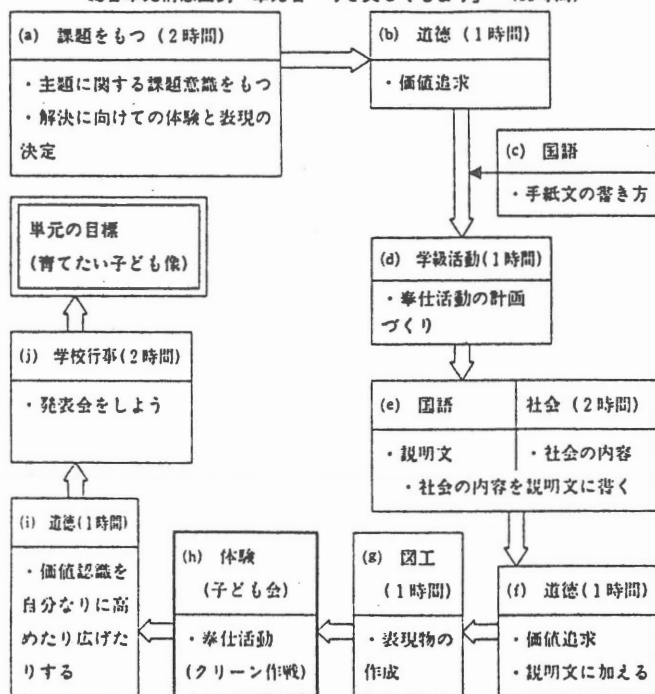
総合学習は、教科、道徳、特別活動を総合するという意味と、単元化するにあたって関連と統合を図る意味をもっている。この「関連」と「統合」づけについて右図により説明する。

関連づけは、図のように道徳と学級活動の流れに国語で学習したことを関連づけることである。また、統合づけは、図の(b)道徳のように総合学習の流れの中に位置づけるものと、

(e)国語・社会のように、教科統合を図って位置づけるものとある。

ここでは、教科統合について詳しく述べたい。また、これは、総合学習に限って実践されることではない。

総合単元構想図例 単元名「町を美しくしよう」(11時間)



②教科統合と教科等統合

教科統合については、子どもにとって、国語の時間も社会の時間も時間割によって内容が違ふというだけであって、一つの課題を解決していく、対象に働きかけていく力は国語

とか社会とかの教科の枠をはずした（教科統合）学習で展開される。

これは、子どもの知識構造の変容について研究を深めれば明らかになってくる。例を国語と社会の教科統合で説明しておこう。国語は「文章構成」理解の内容と「表現」の方法の二つの面をもつ。前者は、説明的文章や文学的文章についての文章の構成や作品の主題へのせまり方など内容についての理解を深めていくのであり、後者は事象についての自分の考えを文章に表現するという他の教科等の学習と結びついてくるものである。社会は、社会事象についての内容を対象にして理解を深めていくものである。

（４）津田小学校の総合学習の実践から学ぶこと

津田小学校では、全学年で総合学習の授業が公開され、横断的・総合的学習の研究が進んだということを実感した。津田小学校の実践から、どのように横断的・総合的学習が進められるのか、そのポイントは何なのかを考察してみたい。

下記のような総合学習についての提案や指導案をみてみよう。

各学年の総合学習のテーマと全体計画

よりよく生きる子どもづくり							
問題解決的学習（探究的な学習）			豊かな人間性をはぐくむ活動				
教科学習		総合学習		道徳と特別活動の関連を図る			
		各学年のテーマと内容		核となる体験活動			
体育	6年	まぼろしの城	松	学	津	道徳 児童会 はな活動	
家庭	5年	「雨滝城」のなぞを探ろう					
図工	4年	東瀬戸から世界を見つめよう					
音楽	3年	美しいふるさとを未来に残そう					
社会	2年	津田町をすてきな町にしよう					
理科	1年	まつばらたんけんをしよう	原	別	田	小	動
算数	6年	まぼろしの城	清	見	祭	学	動
生活	5年	東瀬戸から世界を見つめよう	掃	学	り	児	動
国語	4年	美しいふるさとを未来に残そう				童	動
	3年	津田町をすてきな町にしよう				級	動
	2年	津田町のたんけんをしよう				会	動
	1年	まつばらたんけんをしよう				活	動
						集	動
						会	動
						タ	動
						、	動
国際化		環境		人間		情報化	
ゆとりのある教育環境							
地域に開かれた学校づくり							

津田小学校の総合学習について、下記のようにまとめた。各学校でも参考になるのではないだろうか。特に、「各教科、領域にまたがって横断的・総合的に単元を構成していること」に学ぶべきポイントがあると思う。

さらに、総合学習とつないだ社会科の学習内容の厳選について、津田小学校のプランや香社研の「試案」を参考に、各学校でも研究を進めてほしい。

①津田小学校の総合学習の特色

- ・「国際化」「環境」「人間」「情報化」という四つの教育課題、学校課題を踏まえた学習であること
- ・総合学習の学力として、「内容知」と「方法知」を考えていること
- ・各教科、領域にまたがって横断的・総合的に単元を構成していること
- ・地域の学習材を発掘し、系統を図って各学年のテーマとしていること 等

②総合学習とつないだ社会科の学習内容の厳選

3年～6年の総合学習の年間計画をみると、社会や国語、学級活動等との関連や統合が図られていることが分かる。社会や国語、学級活動として単独で学習するよりも、総合学習とつないで実践するほうが効果的であるということなのである。そのように考えて、社会科の学習内容の厳選を図っていくという研究が各学校で必要となっているのではないだろうか。

しかし、総合学習の中で、関連や統合を図らない単元や学習もある。社会科として、生きて働く知識の獲得、課題や見通しをもち学んでいく力の育成、地図や年表等を活用する技能や能力の育成等は、総合学習とつないだ時間にも、内容を厳選した社会科の時間にも、しっかりと身につくよう考えることが必要なのであろう。

Ⅲ 社会科学習 ～人間の生き方・在り方を求める教材開発～

(1) 学習内容の厳選による、教材の再構成

①「ゆとり」と「学習内容の厳選」

中教審の答申、教科審の議事の中で学習内容の厳選の必要性が強調されている。

自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成を基調とする教育を進めるためには、「ゆとり」のある教育課程を編成することが不可欠であり、どうしても学習内容の厳選を図る必要がある。

この学習内容の厳選は、「不易と流行」を踏まえ、学校で身に付けるべき基礎・基本は何かなどを問いつつ徹底して行うべきであり、これからの社会科教育の改善にあたって急務かつ原則となるものである。

②厳選にあたっての基本的な考え方

厳選はゆとりを生み出すことになることから、当然学習内容を削っていく必要がある。と同時にこれまで積み上げてきた総合学習、社会科学習の成果をもとに、真に子どもの課題意識と学習内容の高まりを生み出す教材を「厳しい目で選ぶ、新たに創り上げていく」過程でもある。学力の構造を踏まえ、生きる力を育成する立場から、厳選をどのような点から考えていけばよいか、その基本となるものをいくつかを挙げておきたい。

ア 総合学習とのかかわり

学校課題の解決を図り、学校教育の柱となる総合学習の実践の中にどのように社会科学習が組み入れられているか。組み入れられていない社会科学習にどう軽重をかけつつ、子どもの課題意識を大切にしたい展開を考えるか。

イ 教材開発の視点の明確化（別項で詳述する）

「不易」と「流行」を見つめ、社会の変化を見通した学習内容とするためには、どのような視点から教材開発していけばよいか。また、学年の発達に応じて、視点の関連をどう図っていけばよいかについて考慮する。

ウ 子どもの認識の系列についての再考

「易から難」、「単純から複雑」、「近から遠」、「旧から新」など、従来の教材配列のもととなる考え方が、常に子どもたちの学びにとってふさわしいものかについて再考する。農業単元や工業単元といった領域にこだわった単元の在り方も見直す。

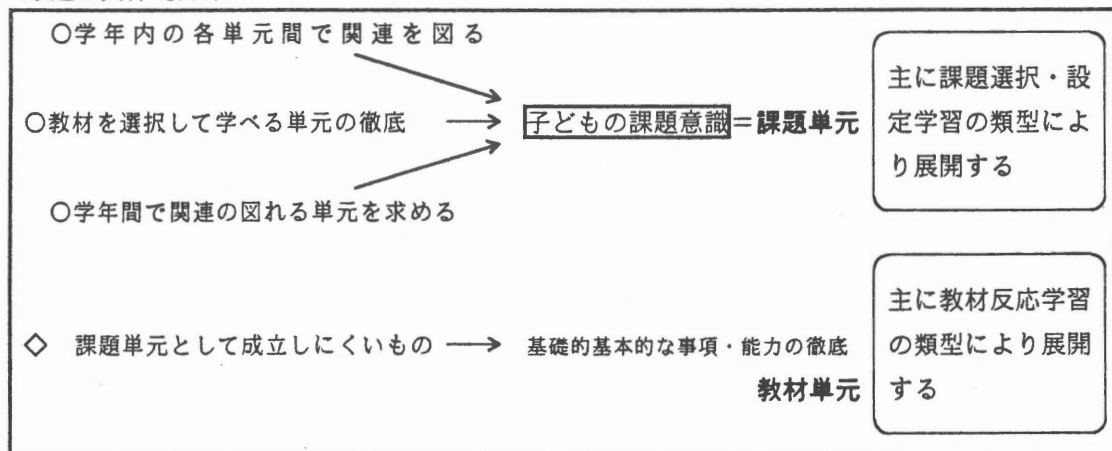
エ 小・中、学校外における関連

歴史学習においては、通史を二度行わないという表現が中教審答申で挙げられている。小学校らしい歴史学習をどう展開するかは、厳選にあたっての大きな課題である。また、週5日制に向けて、学校外の学習との関連も視野に入れたい。

③どう厳選を図るかの具体的な方策 ー領域単元から課題単元へー

身近な事例に直に当たり、自ら学び、考えることのできる「創る学習」の展開が今求められている。従来の領域にこだわった教材の構成（領域単元）から、子どもの課題意識に基づいた構成（課題単元）へと転換する。②で挙げた厳選の基本的な考え方に基づいて、具体的にはどうしていくかの方策について下図にあるようにまとめておく。

厳選の具体的な方策



（２）社会の変化を見通した教材開発の視点

これからの社会を展望したときに、我が国の社会は様々な面での急速な変化が予想される。それらの変化に対応する教育の在り方が当然模索されるべきである。

反面、教育においては、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらないもの」を大切にしなければならない。

社会の進展の中で「不易」と「流行」を十分に見つめつつ、教材として具現化していくことで、これからを生きる子どもたちの生き方や在り方となって身に付いていこう。「国際化、情報化、科学技術の進展等の変化」に対応すること、また、「我が国の歴史や伝統への愛情や、豊かな人間性を希求し、人権を尊重する心」を培うということなど、今の教育、また社会科に託された役割から、教材開発にあたっては次の五つの視点を大切にしていきたい。

国際化	国際化社会が進展し、世界の中の日本人としての生き方が、求められている。広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもつ人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ることが必要である。
情報化	様々な情報が氾濫し、マルチメディア時代となる将来、情報を主体的に処理する力が求められている。情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人的な能力、並びに人間関係の希薄化など情報化の陰の部分も勘案できる資質等の育成が求められる。

環境	環境問題については、国内の環境に留まらず、地球環境の危機としてとらえなければならない状況となっている。学校教育では、かけがえのない国土や地球の環境に目を向け、人間と自然が共存していく地球としていくために具体的な行動をとる子どもの育成が望まれている。
人間化	子ども達が将来自己実現を図りながら、変化の激しい社会で生きていく上での基準となる生き方の形成が求められる。豊かな人間性、人権意識、正義感や公正さを重んじる心、自己を律しつつ他者と協調するなどの心を尊いと感じることのできるような人間として育っていくことが重視されている。
文化	我が国が形成されてきた歴史、先達が残してくれた芸術、文学、民話、伝承などを学び、これらを大切にしていこうとする心を養うこと。また、それを現代に生かし、新たな文化の創造者・発信者として生きていこうとする資質の育成が求められる。

(3) 人間観を育てていく教材

社会科で目標とされる「内容についての知識」や「方法についての知識」をもとにして、「人間についての知識」の重視が求められている。社会の変化を見通す教材の視点とともに、生き方や在り方自体がそこに物語られている教材の開発を目指したい。

歴史学習を例にとってみる。いくつかの事象をつないで、時代の特徴やイメージについて、自分なりの考えを創り上げていく。その学習の中に、「その時代を生きた人にも、様々な悩みがありそれを乗り越える工夫や喜びがあったはずである」と、そのような人間の心のはいったドラマが描かれていけば、そこから子ども達は一人の人間の生き方や在り方を考えていけるはずである。時代をたくましく生きる姿に感動し、自らが生きる血や肉にすることができよう。

学習方法の中で、自分で自分を育てよう、たくさんの友だちの中で育てようという姿勢で学習方法を見直すとともに、もっと積極的に人間としての生き方を、感動とともに考えられる教材の開発を考えようというのである。

このことが、子どもたちに、人間としての生き方・在り方を見いださせることにつながると考える。

(4) 厳選による教材の再構成 試案

以上、(1)(2)(3)で述べてきたことをもとに、厳選による教材の再構成をどうするかを試案を示したい。

次ページから示す①は、3～6年生の教材配列、単元づくりをどうするかを表したものである。社会の変化を見通した教材開発の視点をもとに、基本課題を明らかにした。さらに具体課題を設定して、教材をどう観るかを一覧できるよう表にしているところに特徴がある。

表中「課」とあるのは課題単元として実践し、主に課題選択・設定学習の類型（別項で解説）で学びを進める。「教」は、教材単元学習を表す。教材反応型学習を中心として、「学び」を重視した、基礎的・基本的事項・能力の徹底を期待する。

②は、6年生の歴史学習において、これらの人物を取りあげて指導を行うことが適切であると例示された42人の人物を「時代の特徴・イメージ、人間としての生き方・在り方を学ぶ」という点から厳選して重点的に取りあげる試案である。

①、②ともに、あくまでも試案である。これから、さらに見直し改善を図っていききたい。これをたたき台に、各学校で総合学習との関連に立っての社会科厳選プラン開発が望まれる。

① 厳選による教材の再構成（試案） 3・4年

		3 年		
基本課題	具体課題	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
世界の中の日本人	国際関係と平和の確立			Iについて ○ 教科書の教材配列にある1・2を一つの単位として構成する。
地球環境にやさしく	生命財産資源の保護・保全			・ 絵地図を単位を通じた表現物とする。その中に、まちにある「公共施設や店」と「それらを利用する人々のようす」、生産活動、環境をまもるための活動（ごみ回収を含む）を加えていく。
	環境の保護・保全	1 みんなでつくるまち ・ 花とみどりのまちづくり ・ みんなのじどうセンター	I わたしたちのまちをたんけんして人びとのくらしをさぐる ・ まちをたんけんして絵地図をつくらう ・ 人びとのくらしをみつめよう ・ 他校の友だちと絵地図をこうかくして市のようすをしらべよう	・ 絵地図にして調べたことを他校と交流することで、市全体のようすを明らかにしていく。 ・ 単元II・III・IVで学ぶ内容を含んでいることで、以後の学習の課題をもつ。
くらしをひらく 生産と消費	生活圏の広がり と他地域とのかかわり	3 わたしたちのくらしとものをつくるしごと ・ かまぼこをつくる工場 ・ 市の工場で作っているもの	II わたしたちのくらしとものをつくるしごと	II・IIIについて ○ 生産・消費活動について何を取り上げるか、地域の実態に応じつつ、選択して学ぶことを徹底する。
	生産・流通・消費のしくみの変化	4 わたしたちのくらしと商店 ・ スーパーマーケット ・ 買い物の工夫	III わたしたちのくらしと商店	
	地域環境と人々の生活	2 わたしたちの市のようす ・ 学校のまわりのようす ・ 市ぜんたいのようす		
地方からの文化発信	人権の確立と民主政治			IVについて ○ Iの学習が環境に視点を置いていることと関連を図って構成をする。
	社会の発展と人間の歩み	5 かわってきた人びとのくらし ・ むかしをしらべる ・ くらしのうつりかわり ・ つたえる人・うけつぐ人	IV まちのようすやくらしがかわったことを絵地図にしよう ・ まちのむかしをたずねて絵地図をつくらう ・ 絵地図をくらべてくらしの変化をさぐる	・ 地域の生活環境の変化をみる。 ・ Iでつくった絵地図との比較をする。

4 年		
教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
		I について ○ この単元は、3年生Ⅳの「くらしの変化」での課題をうけて設定する。何を取りあげるかについては、地域の実態に応じて選択することを徹底する。
2 安全なくらしを守る ・交通事故からくらしを守る ・火事からくらしを守る	I わたしたちのくらしの安全を守る仕事のように調べよう ・交通事故から ・火事から	課
1 住みよいくらしをささえる ・くらしをささえる水 ・ごみと住みよいくらし	II ごみのゆくえを調べよう	教
3 わたしたちの県 ・自然と人々のくらし ・県の広がりとかくらし		
		III について ○ 教科書の教材配列にある1・4を一つの単元として構成。郷土香川における水のもつ意味・人々の願いを課題として、現在／過去と考えていく。 ・ 3・4年を通して基本課題「世界の日本の日本人」がないことに配慮する。
5 各地のくらしとわたしたちの国土 ・山地の人々のくらし ・低地の人々のくらし ・あたたかい土地のくらし ・雪国のくらし ・国土の自然とかくらし	IV わたしたちの県のように調べ、他の土地とかくらべよう	課
4 きょうどを開く ・台地に水を引く ・新しい地域づくり	III くらしを高める願い わたしたちの郷土と水とのかかわりを調べよう ・くらしの中の水 ・香川用水 ・水を求めた先人の努力	課

厳選による教材の再構成（試案） 5・6年

		5 年		
基本課題	具体課題	教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
世界の中の日本人	国際関係と平和の確立	3わたしたちの生活と運輸 ・生産地と結ぶ ・世界と結ぶ ・貿易と運輸	←	Iについて ○ この単元は、教科書の教材配列では、第4学年5「各地のくらしとわたしたちの国土－国土の自然とくらし－」にある内容を基盤としている。 ・基本図や資料をもとに、環境、地形、人口分布、生産の全国的傾向や問題点をつかむことをねらいとする。この単元で出てきた視点をもち、以後の学習の課題とする。
	生命財産の保護・保全			
地球環境にやさしく	資源環境の保護・保全	2(4)これからの工業と環境 5わたしたちの生活と国土 ・人口のかたより ・環境を守る森林の働き ・限りある地球と日本の国土	Iわたしたちの国土の地図を開いて、人々のくらしを調べよう ・環境 ・地形 ・人口 ・生産	教
	生活圏の広がりとは地域とのかかわり	4わたしたちの生活と情報 ・放送局で働く人々 ・情報の働き		課
くらしをひらく生産と消費	生産・流通・消費のしくみの変化	1わたしたちの生活と食料生産 ・米作りのさかんな庄内平野 ・野菜作りのさかんな地域 ・日本の農産物と耕地 ・水産物のさかんな地域 ・これからの食料生産 2わたしたちの生活と工業生産 ・伝統的な技術を生かした工業 ・自動車をつくる工業 ・工業地帯と工業生産	IIスーパーマーケットから農業生産のようすを調べよう III商店街の品物から工業製品の生産のようすを調べよう	課 課
	地域環境と人々の生活		IV郷土の伝統工芸品から、生産のようすを調べよう	教
	人権の確立と民主政治			
地方からの文化発信	社会の発展と人間の歩み		V農水産・工業・伝統工芸の生産から郷土のほこりを新聞にして情報発信しよう	課

6 年		
教科書の教材配列	教材の再構成による厳選プラン	解 説
3 世界の中の日本 ・日本と関係の深い国々 ・平和を願う政治	III 世界の中の日本人としての 生き方を論文にしよう ・日本と深く結びつく国々と人々のく らしを調べて	課 I について ○ 時代と時代の因果 をつかむことにもね らいをもった通史的 な歴史学習になるこ とのないよう配慮す る。その時代の特徴 やイメージが豊かに ふくらむことにねら いをもつ。
3(2)地球の環境と世界の平和	III (2) 地球の環境と世界の平和を守 る働きを調べて	教 ・ 地域に残る文化 財、先人を窓口にし てその時代の特徴・ イメージのつかめる ものにふれていく課 題単位とする。 ・ この学習にあたっ ては、必ずしも時代 順に学ぶことを必要 としない。 ・ 地域を通して学ぶ ことが難しい時代像 については、教材反 応型の学習で描いて いく。その際、取り あげる人物について は、別項のように嚴 選して考える。
2 わたしたちの生活と 政治 ・みんなの願いを実現する政 治 ・一人一人を大切に政治	II 瀬戸大橋(例)ができる までを調べ、政治とのかかわ りを新聞にしよう I 地方史からの歴史調べを しよう ・ 地域に残る文化財や先人を窓口 にそれぞれの時代のとくちょうをつか もう ・ 我が国の歴史に残る先人の業績や 生き方に学ぼう	課 II について ○ 身近な公共施設が できるまでを調べる 過程で、政治の働き が反映しているこ とや、民主政治の基 になっている日本国 憲法の基本的な考え 方を取りあげる展開 とする。 III について ○ 世界の中の日本人 としての生き方・在 り方を自ら問うてい く課題単位とする。
1 日本の歴史 (1) わたしたちのまちの歴 史探検 } (12) 長く続いた戦争と新 しい日本の出発		

②歴史学習を見直す厳選 試案

歴史学習の内容をどう再構成するかについて、中教審の答申では、以下のように述べられている。

我が国の歴史に関する学習などは繰り返し学習することの効果もあるが、小学校と中学校とでいわゆる通史を二度行わないようにすること（中略）など、学校段階における重点の置き方に一層の工夫を加えるなどして、各学校段階間または各学年間で重複する内容については、できるだけ精選を図る。

これまでも小学校の歴史学習が、中学校の薄墨になっているとの批判はあったのだが、具体的な実践となりにくかったということがいえる。今回の答申にある「重点の置き方への工夫」を受け、小学校らしい歴史学習のねらいを「その時代の特徴やイメージが豊かにふくらむ」とこととしたい。時代から時代へと移り変わる因果関係にも目を向けてきた学習からはっきりとした転換を図る。

そのために、地域に残る文化財、先人を窓口にして、その時代の特徴・イメージのつかめるものにふれていく課題単元の実践を考えたい。どうしても地域を窓に学ぶことが難しい時代像については、教材単元として扱い、教材反応型の学習で描いていく。

両者の実践にあたって、どの人物を取りあげることが、「時代の特徴やイメージにつながるか」、
「人間としての生き方・在り方が学べるか」と厳選を考慮して挙げたのが、以下の表である。

卑弥呼	聖徳太子	小野妹子	中大兄皇子	中臣鎌足	聖武天皇	行基	鑑真
藤原道長	紫式部	清少納言	平清盛	源頼朝	源義経	北条時宗	足利義満
足利義政	雪舟	ザビエル	織田信長	豊臣秀吉	徳川家康	徳川家光	
近松門左衛門	歌川（安藤）広重	本居宣長	杉田玄白	伊能忠敬	ペリー		
勝海舟	西郷隆盛	大久保利通	木戸孝允	明治天皇	福沢諭吉	大隈重信	
板垣退助	伊藤博文	陸奥宗光	東郷平八郎	小村寿太郎	野口英世		

Ⅳ 問いと論証の過程の学習 ～認知過程の探究～

昨年度来、平成10年度に開かれる全小社研大会を目指した授業改造の視点を示してきている。

授業に「ゆとり」をもって、問題解決的学習を展開し、いじめ対策に心した個に応じた授業を試みる。

- ・ 問いと論証の過程 ～認知過程～ を探究する。
- ・ 子ども理解に立つ指導案を工夫する。
- ・ 子どもの感性、感じ方を広げる支援・援助を工夫する。
- ・ 子どもの成長過程の違いに目を向けた体験・表現重視による真の理解を図る。
- ・ よさを生かし伸ばすことと、自己抑制の力を育てることの両立を図るため、「自己意識・自己理解」の究明をする。

豊かでたくましく生きる人間づくりを求める上での、真の学力の構造である、

生きて働く知識をもち

生涯にわたって学び続ける能力を備え

人間としての生き方、在り方を求める

を踏まえ、これからの総合学習・社会科学習では、その基盤となる「問いと論証の過程」にどのような理論と実践を展開し、授業研究の在り方を探っていけばよいのか。総合学習の実践を積んできたことの成果から社会科授業を見つめ直してみたこと、また上に挙げた今後の授業改造の視点を含めながら、その理論・実践の柱を

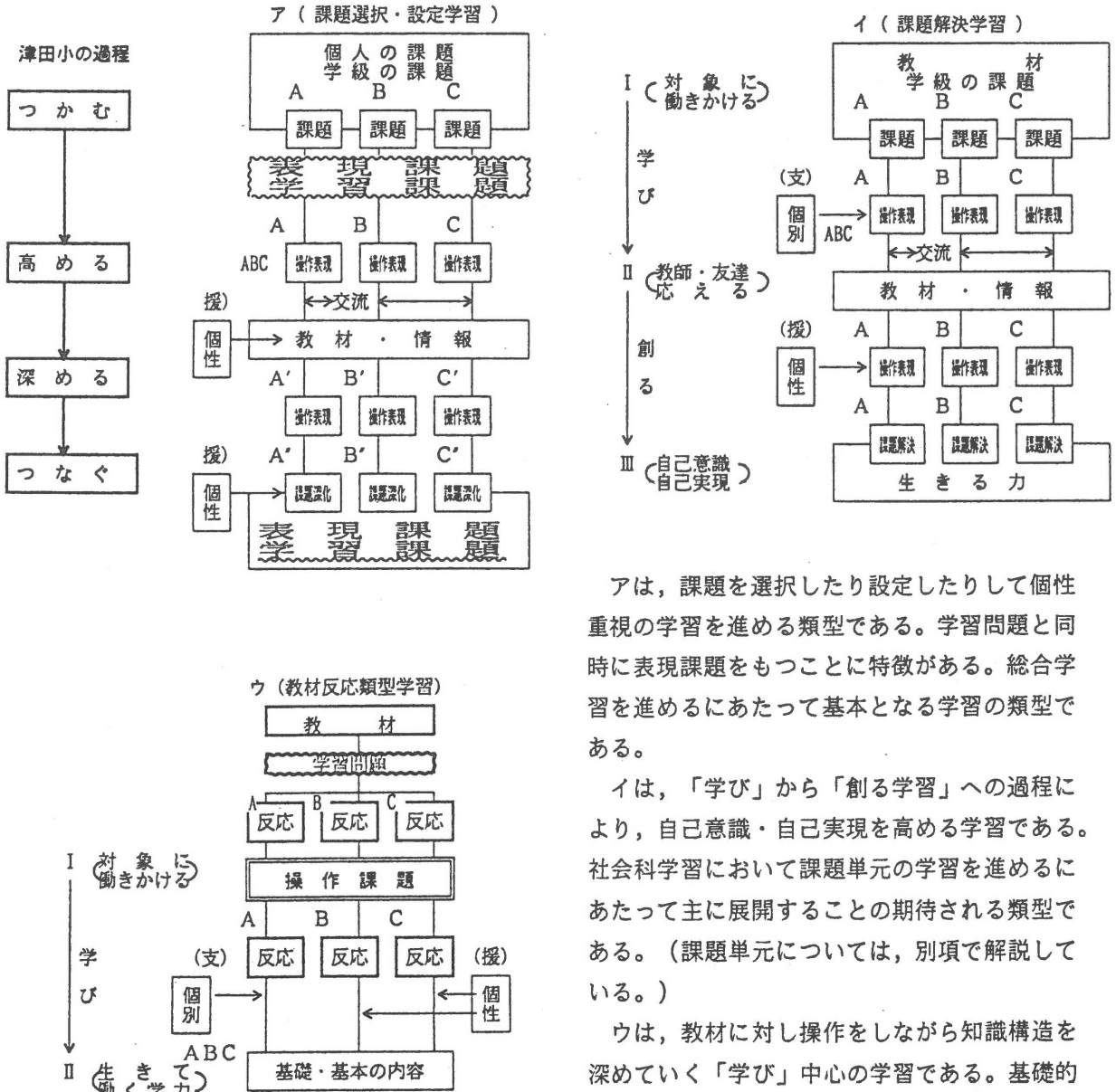
- 1 総合学習，社会科学習（課題単元学習，教材単元学習）の三つの学習類型について
- 2 知識構造の変容を図る授業構成
- 3 豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動

と置いて、以下論を進めることにしたい。

1 総合学習，社会科学習（課題単元学習），社会科学習（教材単元学習）の三つの学習類型について

真の学力を育成するには，個に応じた学習として，指導の個別化と学習の個性化を図っていかなければならない。教材や学習課題のちがいによって子どもの認知過程が異なることから，いくつかの学習類型が考えられる。

ア 課題選択・設定学習（総合学習） ， イ 課題解決学習 ， ウ 教材反応類型学習 の三つを，その類型として考えたい。



アは，課題を選択したり設定したりして個性重視の学習を進める類型である。学習問題と同時に表現課題をもつことに特徴がある。総合学習を進めるにあたって基本となる学習の類型である。

イは，「学び」から「創る学習」への過程により，自己意識・自己実現を高める学習である。社会科学習において課題単元の学習を進めるにあたって主に展開することの期待される類型である。（課題単元については，別項で解説している。）

ウは，教材に対し操作をしながら知識構造を深めていく「学び」中心の学習である。基礎的基本的な事項や能力の徹底を図る社会科の教材単元学習に適している。

2 知識構造の変容を図る授業構成 ～問いと論証の過程として～

(1) 生きて働く知識は、能力との深いかかわりをもって育成される

知識については、知識の量的な偏りを改めなければならないとしても知識を軽視してはならない。子どもの認知過程を探究すると思考力・表現力・判断力などの能力は、知識と深い関わりをもって育成される。記憶中心の知識ではなく、構造化された生きて働く知識としてである。

知識と能力との関わりは、能力を育てる知識と、新しい知識を得る能力の二つの関わりをもつ。思考力・表現力などの能力は、子どもの発達を促す内容をもつ知識を媒介として育てられ、新しい知識を獲得していく。そして、その知識が生きて働く知識として、より高次の思考力・表現力などを育てていく。

このように、知識は、能力とともに生かされ、高められていくものであることから、貧弱な知識や情報では役に立たない。そして、この知識は、1時間の授業の過程でいうと、授業の初めの一人一人の子どもの知識構造と1時間の授業の終わりの知識構造とでは、変容し、深化していなければならない。このような知識は、重視されるべきなのである。

(2) 生きて働く知識と能力を一体的に育てる学習材と典型材の組み合わせ

生きて働く知識は、豊かなイメージが描ける具体性をもつとともに、社会を窺う尺度としての概念となることの両方を備えていなければならない。

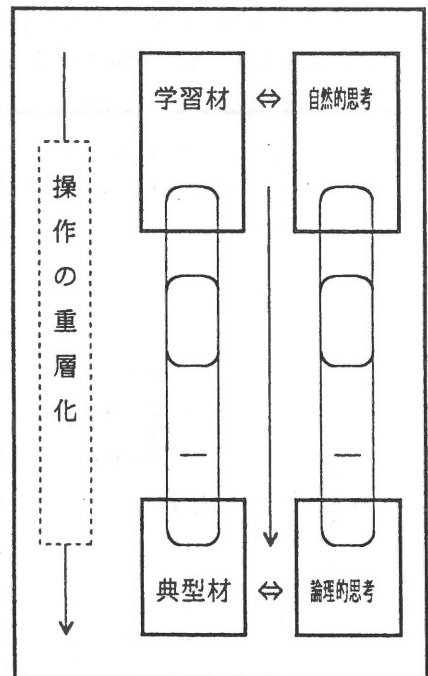
昨今、能力育成を重視した教育の改善が、各地で実践されているところである。しかし、従来の知識・理解中心の授業と変わっていないのが、取り扱う「教材」であり、「教材の考え方」である。

確かに、基礎・基本の内容を獲得していくことを重視した授業においては、教科書教材を「典型材」として重視してきた。このことは大変重要な「教材」の一面である。

しかし、新しい学力観に立つ能力育成を重視した授業においては、思考力・表現力・判断力を育成するのにふさわしい「教材」の考え方が成立しなければならない。

子どもが意欲をもち、個の能力に応じた取り組みができるより具象性のある『教材』が必要なのである。

この教材を学習材と呼ぶことにする。



このように、教材を「典型材」と「学習材」とから見ていきたい。

教育事典によると教材とは、「一定の教育目的を達成させるために選択された教育の具体的内容、文化的素材であり、あるいは、それを学習に適するように再構成し直したもの」と定義されている。

こう考えると、「典型材」は、一定の概念を得る教材である。

「学習材」は、具体事象をもとに 学びの能力を育成する教材と言える。内容的には、「地域性」「生活性」「文化性」をもつこと、方法的には、「学び方・操作方法」を工夫することができることを要件としたい。

学習材から典型材へと具体から抽象の道を歩む中で、子どもの知識は構造化される。言い換えると、問いと論証の過程を踏んでいくのである。

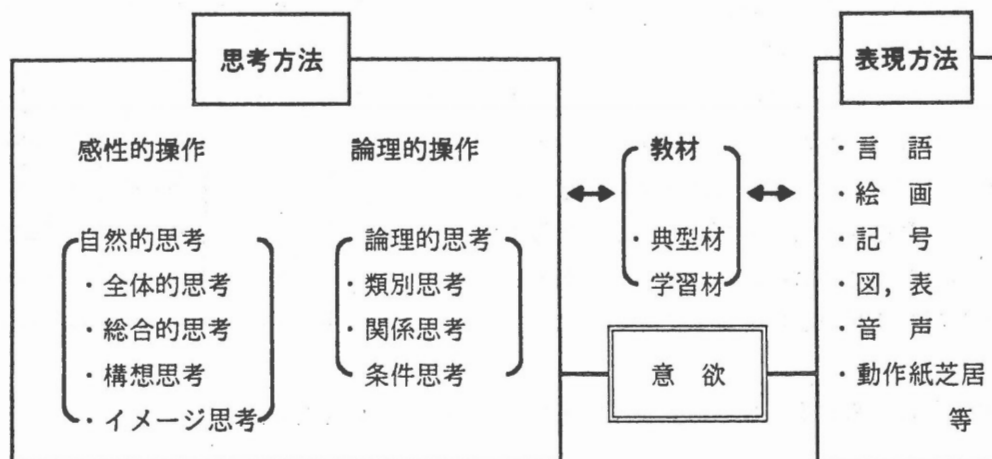
① 教材のままでは、個の能力に応じた取り組みはできない。	個が問いかけ働きかける学習材になっているかどうかを吟味することが重要である。
② 学習材になるか、どうかの吟味が大切 (地域性、生活性、文化性)	
③ その学年の発達段階を踏まえた教材、学習材への加工	

授業は、この「典型材」と「学習材」との組み合わせにより、「生きて働く知識」と「生涯にわたって学び続け、時代を切り開く能力」の一体的な育成の道が開けてくると考える。

(3) 感性を重視した思考と表現の組み合わせ

①論理的操作と感性的操作の開発

生きる力を育成する一つの柱として能力の育成があることは、先に述べたとおりである。この能力の中で、思考力と表現力の育成が要とされており、教材（典型材と学習材）を媒体にして、思考力は思考方法の工夫によって、また表現力は表現方法の工夫によって育成される。その全容を明らかにしたのが下図である。



図の解説をしておこう。対象（教材）に対して働きかけ思考することが表に表れてくるのは、表現物によってであり、表現しながら思考は高まっていく。思考と表現は一体的なものである。その思考方法で思考しつつ、表現方法で表現していく過程が「操作」である。「操作」は、思考と表現の一体的な作用といえる。

この「操作」には二通りあると考えたい。一つは「論理的操作」であり、もう一つは、「感性的操作」である。前者については、本部会が常に研究の対象とし、実践を積み重ねてきたところである。「比べる」「つなぐ」「かえる」の言葉で示される論理的操作については、ここでは、解説を控えたい。課題は、後者である。

②感性的操作について

「感性的操作」は、自然的思考といわれるように、全人格的な思考であり、その人の人柄思考ともいえよう。しかし、この自然的思考力の育成は、これまで意図的に開発されていない分野である。特に、最近のいじめ問題をはじめとする心の問題についても授業を通して思考力を育てることは、たいへん重要と考える。

感性的操作の必要性を具体的に挙げて説明してみよう。次の文は、教科書から選んだ文である。

高速道路が開通して、物を運ぶのに短時間で大量の荷物を送ることができるようになりました。

この事例は、対象を客観的にとらえた論理的な言葉で表現されている。それだけに冷たさを感じるし、自分とか相手とかの人間としてのかわりが感じられない。本当にこのことを理解する・認知するためには、「自分を思い」、「相手を思い」、「対象物を思う」感情をともなった感性の言葉が必要なのである。この感性の言葉を掘り起こさないで、教師が教師の思いを尺度にして子どもを見ようとし、理解の程度を図ろうとして授業を展開しているのが現状とも言えるかもしれない。

上記の例でいえば、高速道路が開通して便利になったとすることの論理操作だけでよいかが課題なのである。ここでは、どうしても、ここに道路ができる前の土地の様子や生活している人々の様子や気持ち、道路ができて自然環境に変化が起きた気持ちなどの「感情を言語に表し、それをもとに操作すること」が大切になってくる。

現在の授業研究の在り方を反省的に見つめたとき、この感性的操作の重要性が今後の課題として浮かび上がってくるのである。

③豊かな感情を伴った思考操作

これまで、思考と表現を組み合わせた活動の中で、主体的に自らの考えを築きあげていく能力を育成しようとしてきた。ただ、そのことに豊かでたくましく生きるという視点を忘れてしまうと、つい冷たい学習になっていく。

「事実としての事項と事項をつないで新たな考えを作り出そうとすること」にカード操作の学習が終始してしまうと、そこには人間としての生き方や在り方の入り込む隙間はなくなってしまう。

1枚、1枚のカードに豊かなイメージや人間の物語、それに対する自分の思いや、願いを含めていく。一見すると無味乾燥な記号の背景に感情や気持ちを移入していく。多様な表現と同時に、そこに思いや願いを含めていくことで、人間としての生き方・在り方を求める学習となっていくと考える。

3 豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動

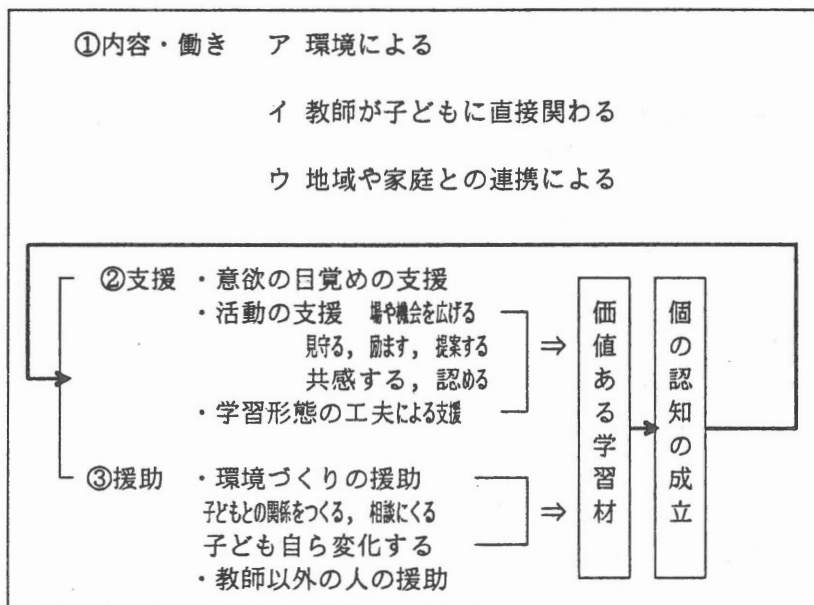
(1) 支援・援助活動の態様

教師の支援・援助というと、すぐに児童に直接助言を与えることだと考えがちである。

確かに教師の支援・援助は大きな役割を占めている。ただ、支援・援助活動は、他の児童の相互交流の場を設定したり、環境づくりを行ったりするような間接的なものも含めて幅広いものととらえたい。

このような支援・援助をもとにしつつ、価値ある学習材を媒介にして、自分のよさや不十分な点を友だちの学びや、教師の整えた環境の中から見いだしていくのである。

与えられるのを待つのではなく、自らが求めていく子どもの学びの姿を求めたい。



(2) 自己意識を育てる自己評価・個のスタイル

自己意識は、「自分自身の考えや行動」、「長所や短所」、「社会的な立場や役割」、「自分自身の五感を通して感じたこと」、「周囲の人々からの期待感や不信感」など、自分自身を意識することである。

この自己意識は、子どもの自主的・自発的な活動の中で育てられ、高められる。教師は、その子らしさを発揮する活動の中で、方向付けたり秩序付けたりという支援・援助活動をするのが肝要となる。

①自己意識を育てることの効用

- ・ 自己意識が高まると、自分自身に関係のある内容についての認知は深まり、行動が積極的になる。
- ・ 自己意識が高まると、自己を高揚するよう記憶し、認知し、思考し、行動し、高い自己評価をしようとする。
- ・ 自己意識が高まると、自己の否定的な面を自らの体験によって修正しつつ、自覚的に自己実現を図ろうとする。

②自己意識を育てる要因と過程

要 因

- ・ 自己評価を高める。(評価の観点としては、肯定的なもの「自信・誇り・自己受容など」否定的なもの「わがまま・消極的・抑制力不足など」が挙げられる。)
- ・ 言語的コミュニケーション・行為の役割表現による他者理解
- ・ 認知スタイルや学習スタイルなど個のスタイルに応じた支援・援助活動

過 程

- 【自己を知る】
- 一人一人が見たことや感じたことにちがいがあることに気づく。
 - 考えていることや感じていることを他の人に説明する。
- 【自己を深める】
- 実感や本音が出せるような体験をする。
 - 自分にとって意味のある体験と思うことを他の人と交流する。
 - 自分の認識したこと、感じたことから、自分を意識する。

③個の確立と集団ばなれ

自分自身を意識することは、友達とのかかわりなしには期待できない。昨今、集団ばなれをおこす子がふえてきている。さらに集団優先の考えを批判する立場から、集団離れを助長する風潮もある。子どもの生きる力の育成、言い換えると個の確立にはどうしても多様性を含んだ集団の力が必要である。

集団の中で、「自分のよさを生かしのばすこと」、「社会は共同体であり、そこでは自己抑制が必要なこと」を学ぶ。集団離れの必要性も認めつつ、授業の中で、そういった集団の力を個の確立にどう生かすか。これは、豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動のこれからの課題の一つになってくると考える。

【参考図書】 個が生きる認知過程の探究

— 真の学力形成を目指す教育課程 —

香川大学教育学部附属高松小学校 著 明治図書

新学力観に立つ社会科授業

— 「問い」と「論証」の調べ学習 —

香川県小学校社会科教育研究会 著 明治図書

